

仙台市文化財調査報告書第364集

# 大野田古墳群

—第18次発掘調査報告書—

2010年3月

仙台市教育委員会



仙台市文化財調査報告書第 364 集

大野田古墳群

—第 18 次発掘調査報告書—

2010 年 3 月

仙台市教育委員会



## 序 文

日頃より、仙台市の文化財保護行政に対しまして多大なご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

現在、仙台市南部の地下鉄南北線富沢駅周辺では、都市圏南部の広域拠点である長町副都心に近接する地の利を生かし、良好な住環境を形成するための土地区画整理事業が推進されております。

本書に収めた大野田古墳群は、この富沢駅の東側に広がる遺跡です。これまでの調査で、前方後円墳1基と円墳43基が発見されており、5世紀後半から6世紀にかけて造られた古墳群であったことが明らかになっています。古墳群の中心部に位置する春日社古墳からは当時のヤマト政権との深いつながりを示す「革盾」が出土しましたが、昨年12月には無事に保存処理作業が終了し、市民の皆様に公開できたことは記憶に新しいところです。

今回の発掘調査は、大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター、並びに児童館複合施設新築工事に伴うものです。

発掘調査に当たっては、関係機関と十分な事前協議を行った上で、記録保存を目的として実施いたしました。本書が広く皆様に活用されることで地域に対する理解がさらに深まり、それが郷土愛につながっていけば、市民の皆様と共に文化財や歴史遺産を活用していく活動に結びついていくことと信じております。

最後になりましたが、発掘調査並びに本報告書刊行に際しまして、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

平成22年3月

仙台市教育委員会  
教育長 荒井 崇

## 例　　言

1. 本書は、大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター並びに大野田児童館複合施設新築工事に伴う埋蔵文化財の調査報告書である。
2. 発掘調査は、仙台市教育委員会の監理のもとに、株式会社玉川文化財研究所が行った。
3. 本書の作成及び編集は、平間亮輔（仙台市教育委員会文化財課）、吉田浩明（株式会社玉川文化財研究所）が行った。
4. 本書の執筆は、平間亮輔の責任のもとに下記の通り行った。

第Ⅰ章第1節……………	平間亮輔
第Ⅰ章第2節、第Ⅱ～VI章……………	吉田浩明
5. 調査と報告書作成にあたり、富沢駅周辺開発事務所ならびに大野田はぎの苑、大野田コミュニティセンターのご協力を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
6. 調査及び報告書作成に関する諸記録、出土遺物等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。

## 凡　　例

1. 土層注記に記載している土色は、「新版標準土色帖」(小山・竹原 1977)に基づいて認定した。
2. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1:25,000『仙台西南部・仙台東南部』の一部を使用している。また、周辺の遺跡では仙台市発行の都市計画基本図1:5,000を使用した。
3. 調査の際の平面座標基準は、日本測地系の直角平面座標第X系を基にしている。世界測地系との対応は以下の通りである。

<A-1 グリッド交点>			
日本測地系 X = -198,420	Y = 3,840	北緯38° 12' 44.40582"	東経140° 52' 37.88147"
世界測地系 X = -198,111	Y = 3,539.9731	北緯38° 12' 55.12030"	東経140° 52' 25.53436"
- なお、報告書抄録の緯度経度は世界測地系を用いている。
4. 本図に使用した挿図縮尺は以下の通り。

遺構平面図 1/200・1/150・1/60・1/30、断面図 1/80・1/60・1/30
遺物挿図 1/3・1/2.5・2/3、遺物写真図版 1/3・2/3
5. 挿図中のレベルは海拔標高を示す。
6. 遺物の登録は種別ごとに行い、番号の前に以下の略号を付している。

A: 繩文土器	B: 弥生土器	C: 非ロクロ土器	K: 石器・石製品
---------	---------	-----------	-----------
7. 本文中の遺物の表記には、挿図番号の他に登録番号を用いた。なお、Sは自然縫を表す。
8. 本書で使用した遺構略号は以下の通りで、番号は種別ごとに付した。

S 1: 竪穴住居跡	S K: 土坑	S D: 溝跡・溝状遺構	S X: 性格不明遺構	P: ピット
------------	---------	--------------	-------------	--------
- また、本文中で小溝状遺構群を小溝群と省略した箇所がある。
9. 層位名は基本層位をローマ数字「I・II・III…」、遺構内堆積土層位を算用数字「1・2・3…」で表した。
10. 遺構および遺物観察表では<>は現存値、( )は推定値を示した。

## 目 次

第Ⅰ章 調査の概要 .....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 調査要項 .....	1
第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	1
第Ⅲ章 調査の方法と経過 .....	5
第Ⅳ章 基本層序 .....	5
第Ⅴ章 検出遺構と出土遺物 .....	9
第1節 Ⅲ層上面検出遺構 .....	9
1. 溝 跡 .....	9
2. 土 坑 .....	11
第2節 Ⅳ層上面検出遺構 .....	11
1. 小溝状遺構群 .....	11
2. ピット .....	17
第3節 V a 層上面検出遺構 .....	24
1. 小溝状遺構群 .....	24
2. 溝 跡 .....	26
3. 土 坑 .....	30
4. 性格不明遺構 .....	30
5. 壓穴住居跡 .....	33
第4節 V b 層上面検出遺構 .....	37
1. 土 坑 .....	37
2. 性格不明遺構 .....	37
第5節 その他の出土遺物 .....	39
第VI章 ま と め .....	43
写真図版 .....	49
報告書抄録 .....	卷末

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置図 .....	2
第2図 調査区の位置と周辺の遺跡 .....	3
第3図 グリッド配置と調査範囲図 .....	4
第4図 調査区土層断面図（1） .....	7
第5図 調査区土層断面図（2） .....	8
第6図 SD 1 溝跡断面図 .....	9
第7図 Ⅲ層上面遺構平面図（SD 1, SK 1・5） .....	10
第8図 SK 1・5 土坑平面・断面図 .....	11

第 9 図	IV層上面全体図	12
第10図	IV層上面遺構平面図（小溝群 1、ピット）	13
第11図	IV層上面遺構平面図（小溝群 2、ピット）	14
第12図	IV層上面遺構平面図（小溝群 3、ピット）	15・16
第13図	IV層上面小溝状遺構群 2 断面図	17
第14図	IV層上面小溝状遺構群 3 断面図	18
第15図	Va層上面全体図	25
第16図	Va層上面遺構平面図（小溝群 4、SD 2、SK 2・3、SX 1）	27
第17図	Va層上面遺構平面図（小溝群 5、SK 4、SI 1）	28
第18図	Va層上面遺構平面図（小溝群 6）	29
第19図	Va層上面遺構平面図（SD 3・4）	30
第20図	SK 2～4 土坑、SX 1 性格不明遺構平面・断面図	31
第21図	SI 1 壓穴住居跡平面・断面図	34
第22図	SI 1 壓穴住居跡柱穴・P 7（床下土坑）・土器集中部断面図	35
第23図	SI 1 壓穴住居跡 P 6（貯蔵穴）平面・断面図	36
第24図	SI 1 壓穴住居跡出土遺物	36
第25図	SK 6 土坑出土遺物	37
第26図	Vb層上面全体図	38
第27図	SK 6・7 土坑、SX 2 性格不明遺構平面・断面図	39
第28図	出土遺物（1）土器	40
第29図	出土遺物（2）石器	41
第30図	出土遺物（3）石器	42
第31図	主要遺構の新旧関係図	43
第32図	近隣の成果との対応関係	44

### 表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧	2	第5表	IV層上面ピット観察表（2）	22
第2表	IV層上面小溝状遺構群観察表（1）	19	第6表	IV層上面ピット観察表（3）	23
第3表	IV層上面小溝状遺構群観察表（2）	20	第7表	IV層上面ピット観察表（4）	24
第4表	IV層上面ピット観察表（1）	21	第8表	Va層上面小溝状遺構群観察表	32

### 写 真 図 版 目 次

写真図版 1	調査区全景（1）	49	写真図版 9	土坑（1）	57
写真図版 2	調査区全景（2）	50	写真図版 10	土坑（2）	58
写真図版 3	調査区全景（3）	51	写真図版 11	III層範囲検出状況、溝跡（1）	59
写真図版 4	調査区全景（4）	52	写真図版 12	溝跡（2）、小溝状遺構群、	
写真図版 5	遺構検出状況	53		性格不明遺構（1）	60
写真図版 6	壓穴住居跡（1）	54	写真図版 13	性格不明遺構（2）、土層断面	61
写真図版 7	壓穴住居跡（2）	55	写真図版 14	出土遺物	62
写真図版 8	壓穴住居跡（3）	56			

## 第Ⅰ章 調査の概要

### 第1節 調査に至る経緯

今次調査は富沢駅周辺土地区画整理事業地内、仙台市大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター並びに大野田児童館複合施設新築工事に伴って行われたものである。建築予定地は大野田古墳群の中央部に位置し、建物の構造から遺構に影響を及ぼすことが予想された。このため、仙台市教育委員会は仙台市健康福祉局高齢企画課、太白区まちづくり推進課、子供未来局子供施設課と協議し、建築に先立ち記録保存を図るために発掘調査を実施することになった。調査は平成21年7月～10月にかけて実施することとした。

### 第2節 調査要項

1 調査名称	大野田古墳群（宮城県遺跡地名登録番号01361・仙台市文化財登録番号C-054）
2 所在地	宮城県仙台市富沢駅周辺土地区画整理事業27街区13, 14, 15（太白区大野田字竹松・宮脇）
3 調査原因	仙台市大野田老人福祉センター、コミュニティーセンター並びに大野田児童館複合施設新築工事に伴う埋蔵文化財の事前調査
4 調査主体	仙台市教育委員会（生涯学習部文化財課）
5 調査担当	調査係主査 荒井 格 調査係主査 平間亮輔 調査主任 吉田浩明（株式会社玉川文化財研究所） 調査員 前川昭彦（株式会社玉川文化財研究所）
6 調査期間	平成21年7月1日～平成21年11月18日
7 調査対象面積	1,204 m <sup>2</sup>
8 調査面積	1,330 m <sup>2</sup>

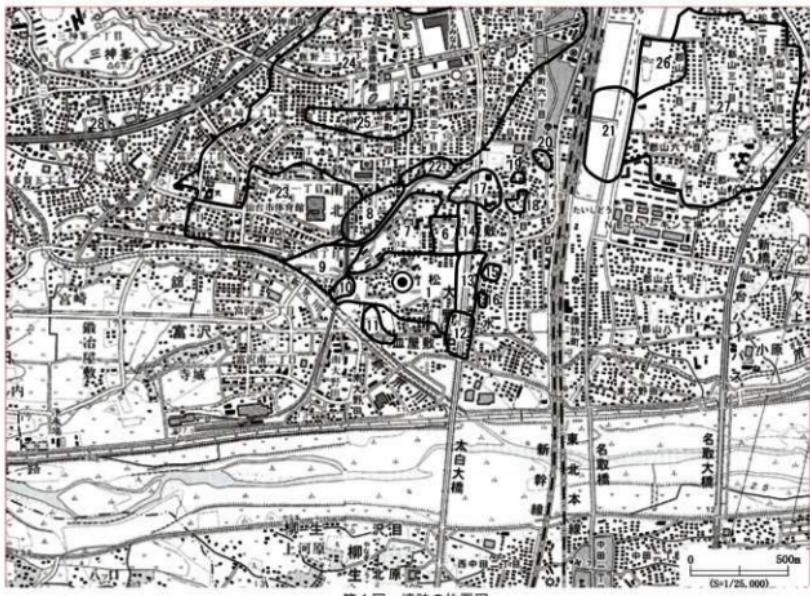
## 第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

大野田古墳群は仙台市南部の太白区大野田字宮脇・竹松・千刈田・塚田・王ノ壇に所在し、今次調査地点は地下鉄南北線富沢駅の北東約400mに位置している。地形的には名取川と広瀬川に挟まれた郡山低地南部の自然堤防上の緩やかな東向きの斜面上に立地し、標高11～12m前後を測る。

周辺の遺跡をみると、旧石器時代では富沢遺跡で後期旧石器時代の森林跡や焚火跡あるいは石器の製作跡が検出されている。

縄文時代では下ノ内浦遺跡で早期前半の堅穴住居跡や落としづが検出されているが、遺跡数が増加するのは中期から後期にかけてである。集落跡では下ノ内遺跡で中期末、六反田遺跡で中期中葉及び後期初頭の集落跡が検出されている。この他、大野田遺跡で後期前半の環状集石群・配石遺構等、下ノ内浦遺跡でも後期前半の墓域が発見されている。また、大野田古墳群では土坑や包含層から後期中葉の土器が、伊古田遺跡では縄文時代後期中葉の多量の土偶を伴う遺物包含層、王ノ壇遺跡では後期中頃と後期後半の遺物包含層や堅穴遺構等、山口遺跡では縄文時代早期から後期の遺物包含層とともに、晩期の河川跡も発見されている。

弥生時代では下ノ内浦遺跡で後期の土壙墓・土器棺墓・堅穴遺構や水田跡が検出されている。下ノ内遺跡では弥



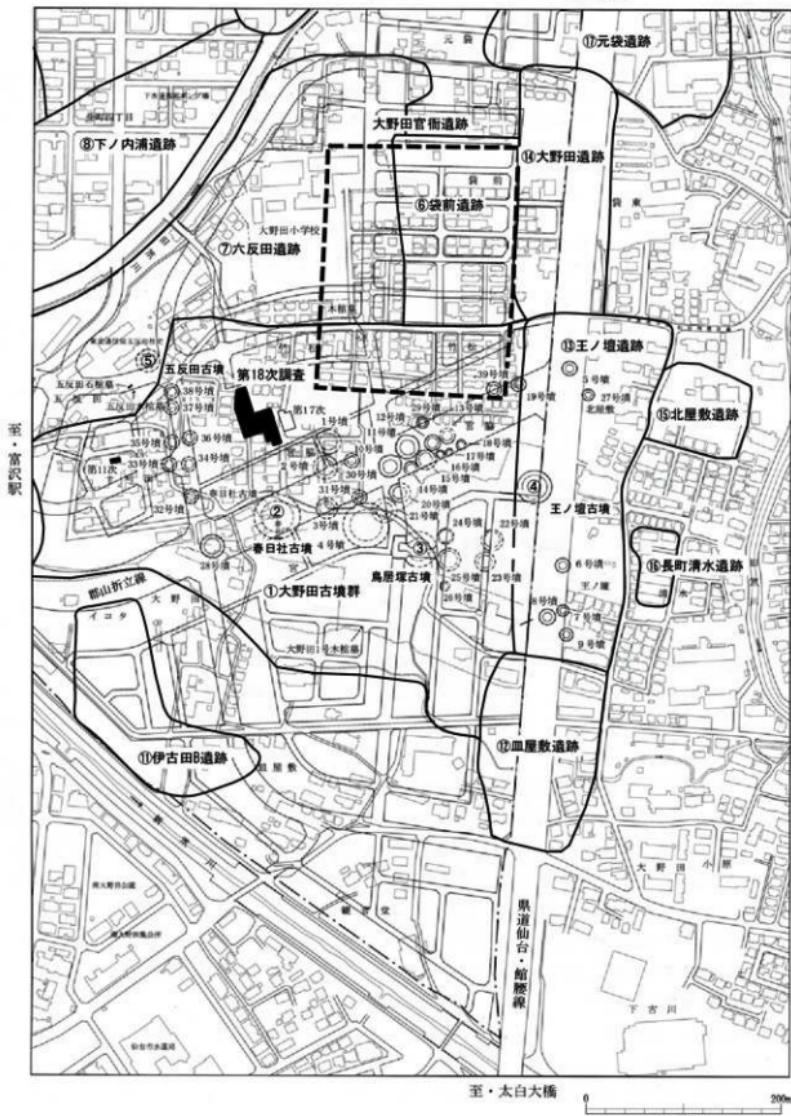
第1表 国別の遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	大野原古墳群	古墳、衛南周、官道	自然崩塌	古墳	15	佐庭散敷遺跡	散布地	自然崩塌	奈良~平安
2	那須社古墳	円墳	自然崩塌	古墳	16	長町清水古跡	散布地	自然崩塌	古墳
3	島尻原古墳	前方後円墳	自然崩塌	古墳	17	元宿道跡	走落地、水田跡	自然崩塌	弥生、奈良~近世
4	三ノ山古墳	円墳	自然崩塌	古墳	18	新田遺跡	散布地	自然崩塌	奈良~平安
5	玉川田古墳	円墳	自然崩塌	古墳	19	長町牛頭遺跡	散布地	自然崩塌	奈良~平安
6	新井遺跡	鬼塚跡	自然崩塌	溝、谷、台原	20	長町下丁目遺跡	散布地	自然崩塌	奈良~平安
7	六ヶ池遺跡	鬼塚跡	自然崩塌	溝文中~北期、奈良~近世	21	長町駅東面跡	走落地	自然崩塌	先史、古墳、奈良初
8	下ノ内瀬遺跡	鬼塚跡、水田跡	自然崩塌	溝文中~北期、鬼生~近世	22	荷物遺跡	散布地	自然崩塌	古墳、奈良、平安
9	下ノ内瀬遺跡	鬼塚跡	自然崩塌	溝文中~北期、鬼生~中世	23	山口遺跡	走落地、水田跡	自然崩塌、後背削開	溝文中~中世、鬼生~近世
10	伊勢田遺跡	鬼塚跡	自然崩塌	溝文中~北期、古墳~平安	24	宮瀬遺跡	走落地、水田跡	自然崩塌	後背削開~近世
11	伊勢田古跡	放牧地	自然崩塌	山塊~平地	25	足岐城跡	台地	自然崩塌	溝文中~中世、奈良~平安
12	尾根散敷遺跡	鬼塚跡	自然崩塌	奈良~中世	26	西白板遺跡	台地	自然崩塌	鬼生、古墳
13	下ノ内瀬遺跡	鬼塚跡	自然崩塌	溝文中後期、生中~北世	27	山口遺跡	台地	自然崩塌、後背削開	溝文中~中世
14	大野田遺跡	原、古落跡	自然崩塌	溝文中後期、生中~小量、鬼生~平安	28	源通遺跡	山塊	自然崩塌	鬼生~平安

生後期の土坑墓と考えられる土坑が、西台畠遺跡でも弥生時代中期の甕棺墓が確認されている。山口遺跡や元袋遺跡及び前述の富沢遺跡では水田跡が検出されている。

古墳時代では大野田古墳群の他、下ノ内遺跡や伊古田遺跡で前期から中期にかけての集落跡が検出されている。古墳時代中期以降になると大野田古墳群で古墳が次々に作られる。代表的なものでは市内最大級の円墳である春日社古墳や前方後円墳の鳥居塚古墳、円墳の王ノ壇古墳があり、確認された古墳は現在44基が知られている。近年では春日社古墳で革盾が良好な状態で発見され、地方の有力古墳として再認識できるとともに大和政権とのつながりが注目されている。六反田遺跡では円墳、石棺墓、木棺墓の他、古墳時代前・後期へ平安時代の集落跡や生産跡が調査され、伊古田遺跡では古墳時代後期から集落が営まれている。

至·長町

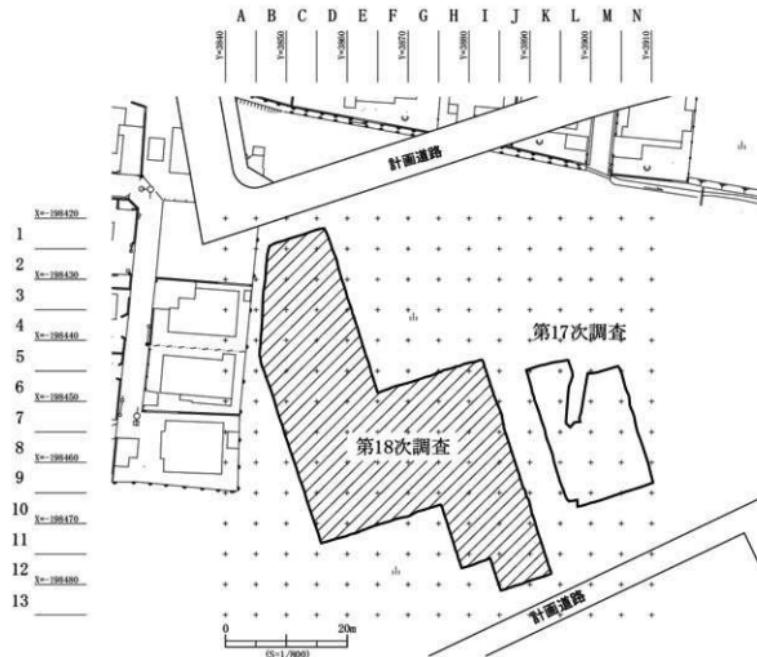


第2図 調査区の位置と周辺の遺跡

古代になると大野田古墳群周辺では下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡、山口遺跡で集落跡が営まれているが、下ノ内浦遺跡、六反田遺跡、山口遺跡は小溝状遺構群を伴っている。皿屋敷遺跡では奈良から平安時代前半の小溝状遺構群の他、平安時代後半の水田跡や河川跡も確認されている。元袋遺跡でも奈良・平安時代にかけて集落が継続しているが、土坑・掘立柱建物跡・小溝状遺構群等が発見され、土坑からは「太」と墨書きされた土師器窯がまとまって出土し、溝跡からは帶金具が出土している。

また、土地区画整理事業に伴う成果として大野田官衙遺跡の発見がある。これまでの一連の調査により大野田古墳群、六反田遺跡、袋前遺跡にかけての範囲には大型の掘立柱建物跡や溝が規則的に配置される状況が確かめられていた。2009年の調査では大型の掘立柱建物跡を囲む溝の西辺と南西コーナーが確認され、東西188~198m、南北245~259mの規模をもつ区画溝であることが明らかになった。このため同年(仮称)大野田官衙遺跡改め「大野田官衙遺跡」として登録された。本地区北東1.5kmには郡山官衙遺跡が存在し、大野田官衙遺跡との密接な関係が重要視されている。郡山官衙遺跡に隣接する長町駅東遺跡あるいは西台畠遺跡もこの時期の集落跡として知られている。

中世に至ると大野田地区では武士の屋敷が造営されるようになる。王ノ壇遺跡では大溝で囲まれた武士の屋敷跡とともに中世の幹線道路である「奥大道」ともみられる道路跡も発見されている。皿屋敷遺跡では掘立柱建物や区画溝が発見され、南側に旧河道が存在することから川に関連する施設があったとされている。元袋遺跡では区画溝や火葬墓等の遺構が発見されている。



第3図 グリッド配置と調査範囲図

また、下ノ内遺跡では中世から近世にかけての溝跡、土坑、掘立柱建物跡等が検出され、溝で区画された星敷跡と考えられている。元袋遺跡では堀で囲まれた近世の星敷跡が重複して発見されている。

## 第III章 調査の方法と経過

グリッド配置は5 mを基準とし、東西方向にアルファベット、南北方向に算用数字を付して現地作業としては7月1日から6日にかけて機材搬入、防護壁設置、場内整備等の準備工を行い、7月7日より重機による表土掘削及び残土の場外搬出を開始した。現地は厚さ1 m前後の盛土の直下に、旧水田耕作土及び床土にあたる酸化鉄層が全面に認められ、これを水道管、下水道管、ガス管の埋設構造や造成時の擾乱が切り込んでいる状態であった。調査区壁際に土層観察用の幅10 cmのトレーナーを適所に設けて土層の遺存状態を確認していく。その後、Ⅲ層上面・Ⅳ層上面・Va層上面の調査を実施し、10月21日に高所作業車による全景写真撮影を行った。

最後にVb層上面遺構等の調査を行い、11月5日より埋め戻し及び整地作業を開始し、11月18日には機材の撤収を含めすべての作業を終了した。

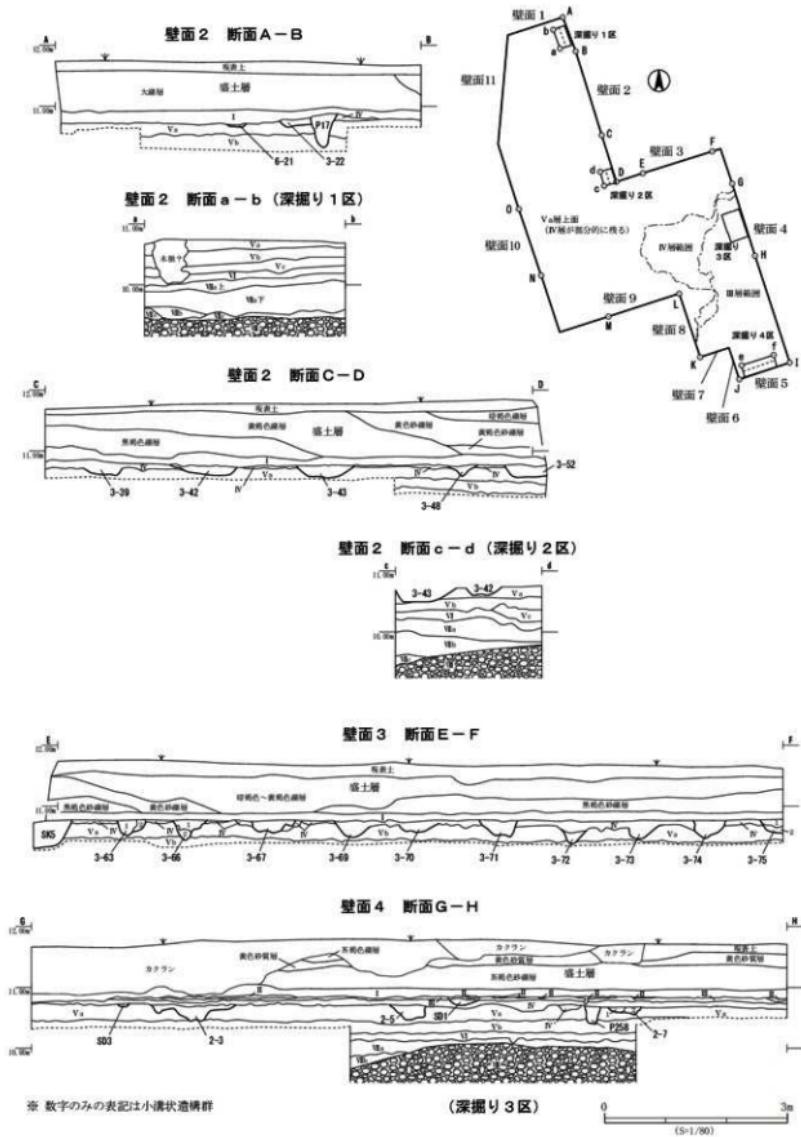
## 第IV章 基本層序

今次調査地点付近は、昭和50年代まで水田として土地利用されており、後の造成工事により厚さ1 m前後の盛土に覆われている状態であった。盛土下の基本層はI～VII層までの大別8層から成り、V層はa～cの3層、VII層はa～cの3層に分層される。

層の遺存状態としてはVa層以下がおおむね良好に残っており、調査区南東方向にかけてⅢ・Ⅳ層の遺存が確認でき、一部でⅡ層も薄く残っていた。北側では水田耕作土直下でVa層が確認され、若干削平を受けている箇所があった。Va層上面は南側に緩やかに傾斜し、南側では土層のグライ化が顕著であった。また、4箇所の深掘り区でVII層（砂礫層）まで掘り下げたが、砂礫層の標高は北側の深掘り1区が9.3 m、2区が9.4～9.8 m、3区が9.7～10.1 m、4区が9.5～9.6 mと小規模な起伏をみせている。

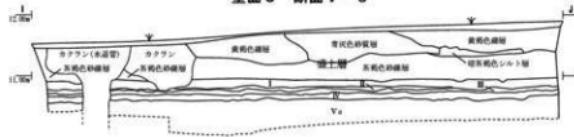
- I 層：灰色シルト（5YR5/1）。盛り土直下の旧水田耕作土。下部の田床と考えられる部分は酸化鉄の沈着が進み、橙色を帯びて硬化する部分が多い。本層直下層にも酸化鉄や黒色マンガンが沈着する部分が認められる。縮まりやや強く、粘性ある。
- II 層：暗褐色シルト（10YR3/3）。調査区南側に遺存しており、弱いグライ化により色調がぶい黄褐色（10YR4/3）となる部分が認められる。旧水田土であるI層の影響により酸化鉄と黒色マンガンが形成されている。縮まりやや強く、粘性やや弱い。
- III 層：ぶい黄褐色（10YR5/4）シルト。最も黄色味の強い土層として認められ、調査区の南側を中心に薄く遺存していた。III層中にみられる10世紀前半降下の十和田a火山灰（俗称「灰白色火山灰」）（註1）は本地区では認められなかった。酸化鉄と黒色マンガンが形成され、縮まり・粘性ある。本層は畑の耕作土と考えられる。III層からは弥生土器・土師器・須恵器が出土した。
- IV 層：暗褐色（10YR3/3）シルト。暗化層として認められる。酸化鉄・黒色マンガンがやや多く形成されており、縮まり・粘性ある。本層下面是不規則な凹凸があり部分的にくぼむ箇所も認められ、畑の耕作土と考えられるものである。こうしたIV層の産みについてはIV'層としている。本層からは弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

- V 層：色調・土性によりVa層～Vc層に細分が可能である。Va層はにぶい黄褐色（10YR5/3）シルト、Vb層はにぶい黄褐色（10YR5/3～5/4）シルトである。Vb層はVa層よりわずかに色調が明るくなるとともに、砂質味が加わり、縮まり・粘性ともに減少する。Vb層上面には炭化物の分布がみられる箇所があった。Vc層はにぶい黄褐色（10YR5/3）粘質シルトである。深掘り4区ではVb層下部がにぶい黄褐色（10YR5/2）から灰黄褐色土（10YR6/2）となって粘性が強くなることからVb'層とした。Va層上位からは弥生土器が出土した。
- VI 層：暗褐色（10YR3/3）砂質シルト。有機質を含む砂質シルト層。部分的に1～3mm程度の炭化物を含む。今回の調査ではVI層からの遺物は検出されていないが、大野田地区周辺では縄文時代後期の遺物包含層が形成される。本層は暗化層として認められ、部分的に炭化物の混入が認められる部分がある。縮まり・粘性やや弱い。
- VII 層：色調・土性によりVIIa層～VIIc層に細分が可能である。VIIa層は灰黄褐色（10YR5/2）～にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質シルトで縮まり・粘性やや弱い。VIIb層は灰黄褐色（10YR5/2）砂層となり、縮まり・粘性がなくなる。VIIc層はにぶい黄褐色（10YR4/3）砂質シルトであり、縮まり・粘性弱い。深掘り1区についてはVIIa層の上位が灰色味の増すにぶい黄褐色（10YR5/2～10YR6/2）砂質シルトとなるため、これをVIIa上層、以下をVIIa下層としている。
- VIII 層：砂礫層。径30～250mmの円礫と粗砂が堆積する砂礫層である。

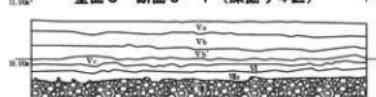


第4図 調査区土層断面図（1）

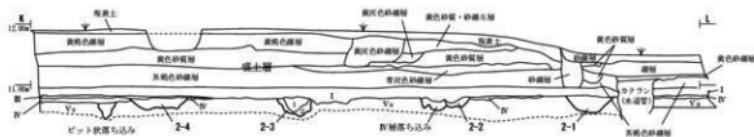
壁面5 断面I-J



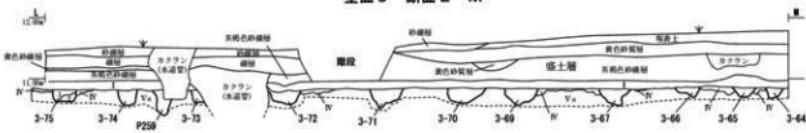
壁面5 断面e-f (深掘り4区)



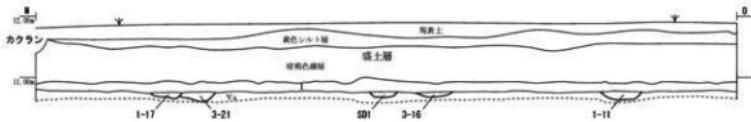
壁面8 断面K-L



壁面9 断面L-M



壁面10 断面N-O



\* 数字のみの表記は小溝状造構群

0 3m  
(S-1/80)

第5図 調査区土層断面図 (2)

## 第V章 検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出された遺構は次のとおりである。

### III層上面検出遺構

溝跡1条 (SD 1)、土坑2基 (SK 1・5)

### IV層上面検出遺構

小溝状遺構群3群 (小溝群1～3)、ピット262個

### Va層上面検出遺構

堅穴住居跡1軒 (SI 1)、溝跡4条 (SD 2～5)、小溝状遺構群3群 (小溝群4～6)

土坑3基 (SK 2～4)、性格不明遺構1基 (SX 1)

### Vb層上面検出遺構

土坑2基 (SK 6・7)、性格不明遺構1基 (SX 2)

以下、各検出面ごとに遺構と遺物について説明する。

### 第1節 III層上面検出遺構

III層上面において検出された遺構は、溝跡1条 (SD 1)、土坑2基 (SK 1・5)である。SD 1は旧水田土 (I層)直下のIII～Va層上面で検出した。一方、SK 1・5はVa層上面の検出であるが、IV層上面検出遺構との重複関係、堆積土の状況からIII層上面検出遺構とした。

#### 1. 溝 跡

##### SD 1 溝跡 (第4・6・7図、図版11-1～3)

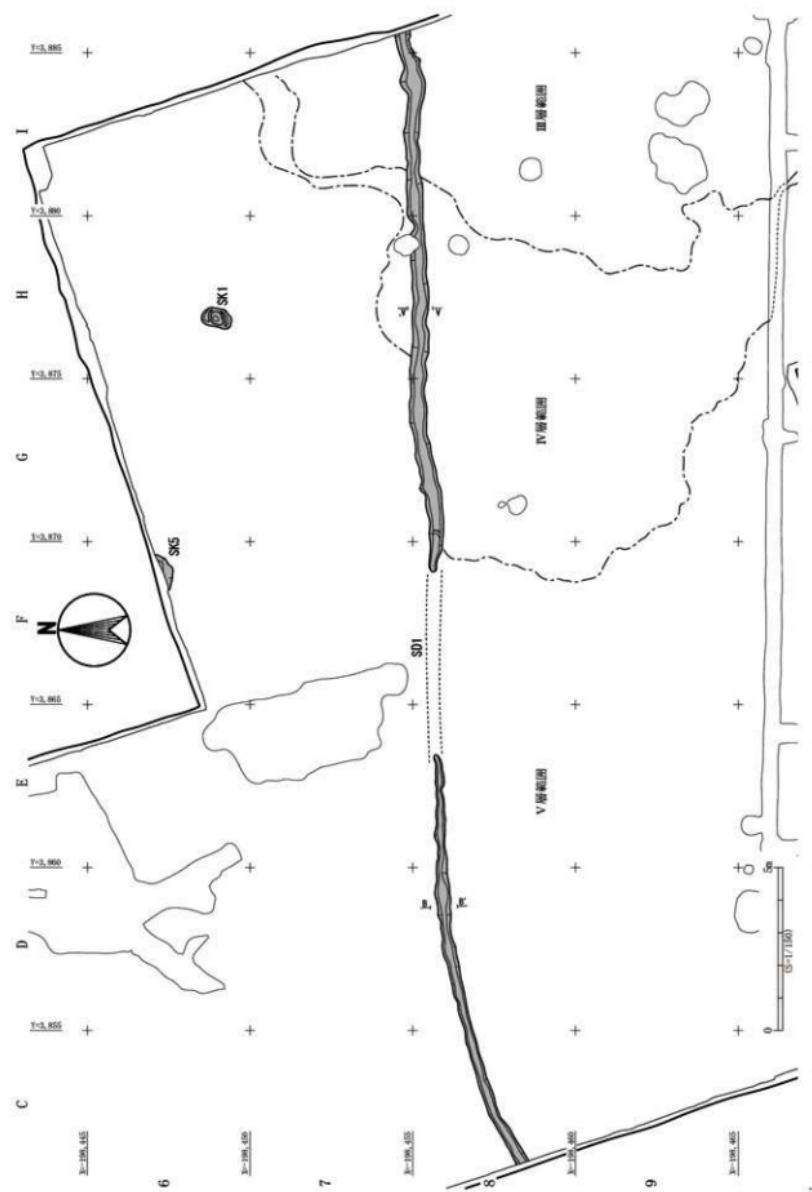
C-8グリッドからJ-7グリッドにかけて東西方向に延びる溝跡である。削平のため中央で途切れているが、東西の双方で調査区外に延びている。直線部分はN=87°-Eとほぼ東西を向いているが、西側ではN=60°-Eと南西方向に向きを変えていく。検出長は直線距離で34.9mを測る。上端幅は16～75cm、下端幅6～48cm、深さは16～25cmである。底面標高は東端部で10.70m、西端部で10.64mと6cmほど西側が高い。また、E-8グリッドに底面標高の最低値 (10.56m)、G-8グリッドに最高値 (10.71m)があり、全体的に小さな起伏が連続する。検出範囲内でみる限りでは一定方向への明瞭な底面勾配はみられない。

第6図、及び第4図の壁断面図に示したように、断面形はU字形あるいは皿形となる。堆積土はにぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂質シルトが主体となり、全体に均質な土層である。堆積土の主体となるにぶい黄褐色土はIII層が流入したものと考えられる。本溝跡から遺物は出土していない。

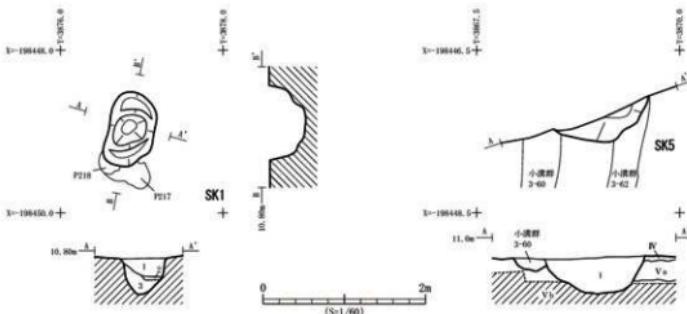


第6図 SD 1 溝跡断面図

第1節 Ⅲ層上面構造



第7図 Ⅲ層上面構造平面図 (SD 1, SK 1-5)



道構		層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR5/4.5に近い黄褐色	シルト	径10~50mmの重層ブロックが主体。IV層土と思われる暗褐色土が斑状に混入。マンガン少量。炭化物微量。粘性弱い。	
	2	10YR4/4褐色	粘土質シルト	粘性強い。	
	3	10YR3/4暗褐色	粘土質シルト	径20~30mmの暗褐色粘土質シルトブロックが多量混入。粘性強い。	
SK5	1	ブロック混合土	シルト	10YR3/3暗褐色、10YR5/4に近い黄褐色、10YR7/1灰白色シルトブロックの混合土。締まり強い。	

図8-4 SK1・5土坑平面・断面図

## 2. 土坑

### SK1土坑（第7・8図、図版9-1・2）

H-6グリッドに位置し、P217・218を切る。平面形はやや不整な楕円形で、規模は93×58cm、深さ45cmである。断面形は短軸方向でU字形であるが、長軸方向では南北双方で有段形となっている。堆積土は3層に分層され、1層中には基本土層のⅢ層ブロックが主体的に混入し、3層中には暗褐色ブロックが多量混入する。1・3層のブロックが混入する状況から人為的に埋め戻された可能性がある。遺物は出土していない。

### SK5土坑（第7・8図、図版10-1）

F-6グリッドに位置し、小溝状遺構群3-60と3-62を切る。調査区壁にかかるところ全容は不明である。規模は東西方向の検出長121cm、南北長は32cmである。深さは調査範囲内で45cmである。

堆積土は一様なブロック混合土の単層である。暗褐色（10YR3/3）シルト・にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト・灰白色（10YR7/1）シルトのブロックが混在しており、締まりが強い。人為的に埋め戻した可能性がある。遺物は出土していない。

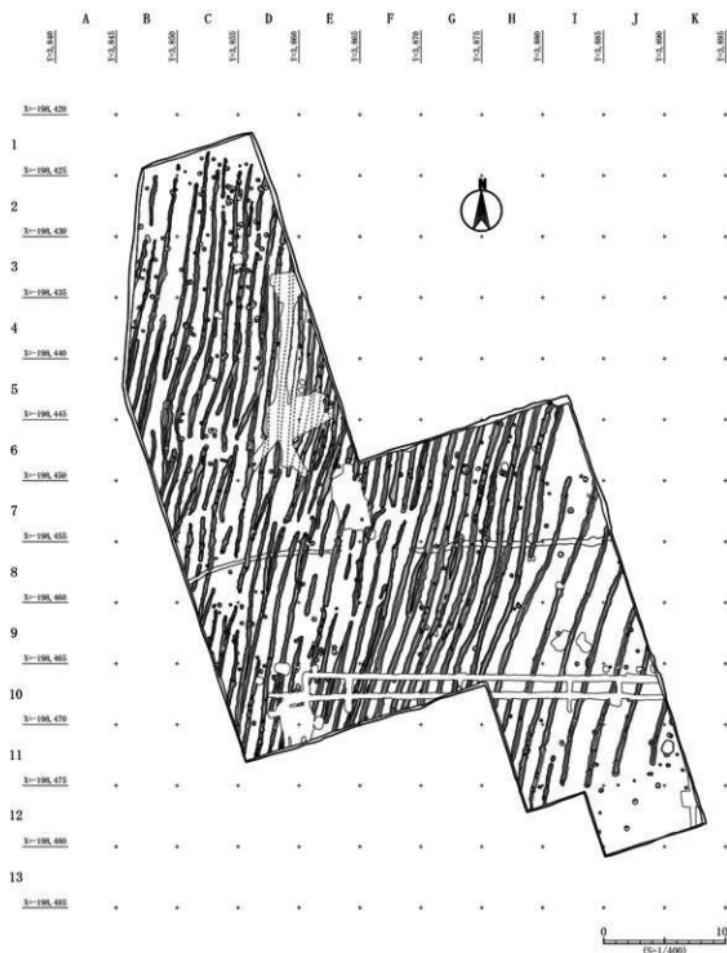
## 第2節 IV層上面検出遺構

IV層上面の遺構は小溝状遺構群1～3である。小溝状遺構群は実際にはVa層上面の検出であるが、調査区壁面の観察では、IV層が遺存する場所においてはIV層を切っていることが確認できたことから、IV層上面の遺構として捉えている。小溝状遺構群は北東方向に並ぶ小溝群1と2、それと北北東及び南北方向にかけて並ぶ小溝群3に分類された。また、多数検出されたピットについても壁面でIV層を掘り込むことが確認できたことから小溝群同様にIV層上面遺構とした。

### 1. 小溝状遺構群

#### 小溝状遺構群1（第10図、図版2-2）

B～F-4～9グリッド内に位置する。小溝21条から構成され、SX1及び小溝群3・4・6を切り、P78・

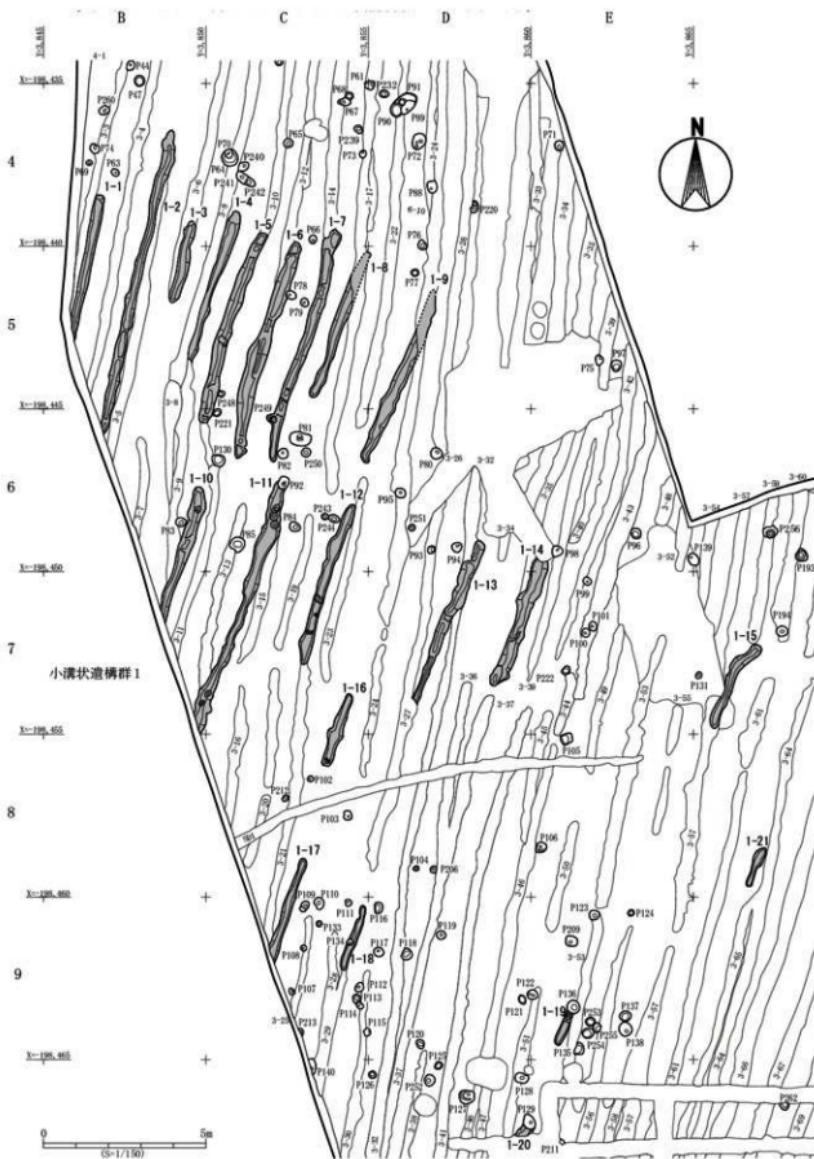


第9図 IV層上面全体図

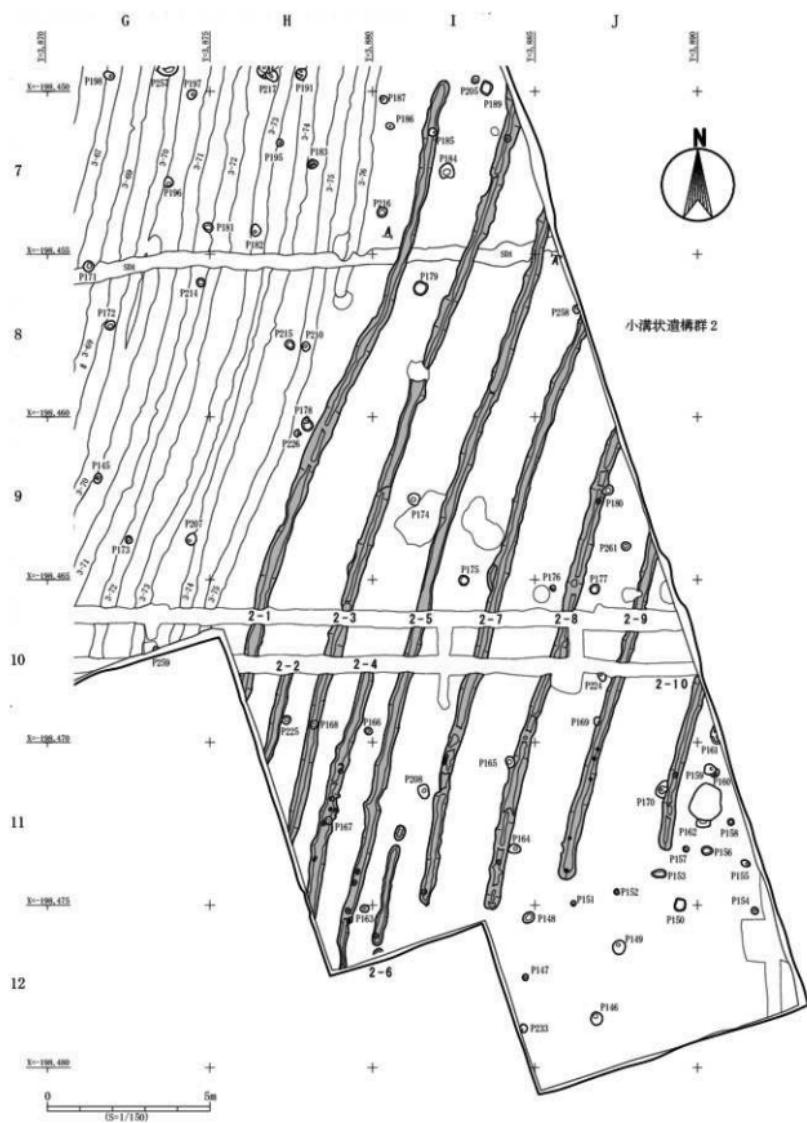
92・129・134・136・249に切られている。小溝群1—1～9による北側に並ぶ一群と小溝群1—10～16による一群との間には途切れる部分があり、小単位に分割できるような配置を示している。また、さらに南側で小溝群1—17～21のように短い小溝が遊離するものも存在するが、方向性を重視して本小溝群にまとめている。

各小溝の方向はN-19°-E前後に收まり、長さは最長部分で8.06mを測る。上端幅は13～60cm、下端幅は6～36cm、深さ6～26cmである。小溝間の間隔は最も配列性のみられる北側のB・C-5グリッド付近で心々距離0.82～1.28m、平均1m前後で並び、間隔の広がる小溝群1—10～14付近で2.12～2.25mとなる。

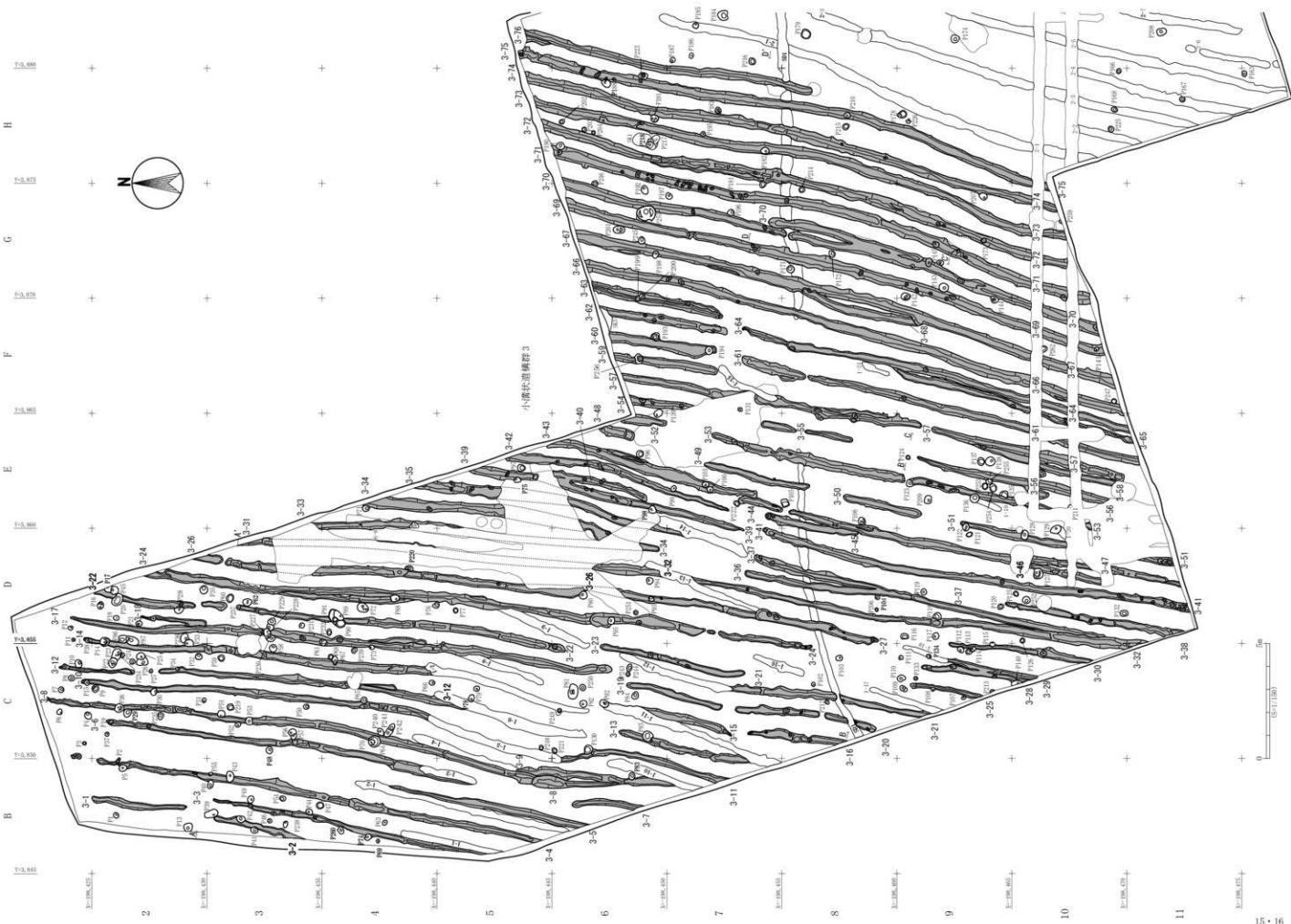
断面形はU字形を基本としており、底面の所々に段部や窪みが認められる。堆積土は暗褐色(10YR3/4)シルト



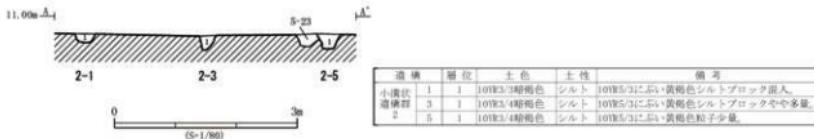
第10図 IV層上面遺構平面図（小溝群1、ピット）



第11図 IV層上面遺構平面図（小溝群2、ピット）



第12図 IV層上面遺構平面図（小溝群3、ピット）



第13図 IV層上面小溝状遺構群2断面図

が主体となって、にぶい黄褐色(10YR4/3)シルトが混じる。

遺物は堆積土中に混在する状態で土師器小片が出土した。その内訳は壺1点、器台1点、甕と思われる底部1点と胴部片4点となる。

#### 小溝状遺構群2 (第11・13図、図版1-1)

H～J-7～12グリッド内に検出された。S11、SK4、小溝群5を切り、SD1、P165・167～170・180・185に切られる。計10条の小溝により構成され、最長部分で小溝群2～5が24.0mを測り、さらに調査区外に延びている。方向はN-13°-EからN-19°-Eの中に収まり、平均してN-16°-Eの向きではほぼ並行して北北東に延びている。大部分が等間隔に並ぶ中で南側の小溝群2～2・4・6はその中间に入り込むが、配列性の高さからみて本小溝群として扱っている。上端幅は16～62cm、下端幅は5～36cm、深さ11～42cmを測る。小溝間の心々間隔は2.07～2.47mであり、南側の2～2・4・6が開わる箇所では0.9～1.35mとなる。

断面形はU字形が基本となり、台形部分となる箇所もある。底面には段差や壅みが認められる。堆積土は暗褐色(10YR3/3～3/4)シルトが主体となり、灰黄褐色(10YR4/2)シルトやにぶい黄褐色(10YR4/3)シルトとなる部分も認められる。遺物は堆積土中に混在する状態で土師器片2点、土師器甕を中心とした小片71点、及び弥生後期の土器片1点(第28図)、礫石器2点(第29・30図)が出土した。

#### 小溝状遺構群3 (第12・14図、図版2-2)

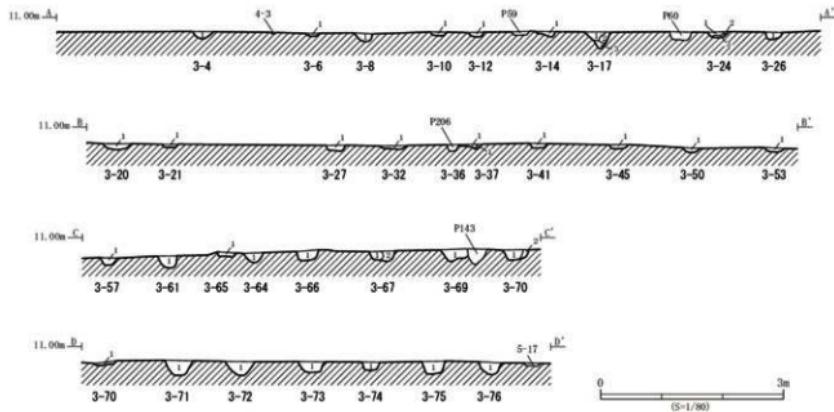
調査区中央から北側にかけての範囲に検出された。SD1、小溝群1に切られ、S11、小溝群4～6を切る。また、重複するピットにいずれも切られている。76条の小溝より構成され、検出範囲は東西35m、南北50mとなる。小溝の方向はN-2°-EからN-18°-Eの中に収まり、平均するとN-10°-Eとなり全体に北方向から弱く東に振れる。ただし、小溝群中央にある小溝群3-48～51を境にした西半の小溝群は、N-10°-E前後より北方向寄りに振れるのに対し、東半ではN-10°-EからN-15°-Eの方向を示し、西半と比べて東寄りの傾きをとっている。この点は小溝群3をさらに分割しえることを示している。小溝間の間隔は小溝群西側の溝列の揃うC-D・4グリッドで心々間隔0.89～1.30m(平均0.73m)、東側のF-H-6・7グリッドで0.79～1.12m(平均0.97m)である。

断面形はU字形が基本となり、逆台形部分も認められる。堆積土は暗褐色(10YR3/3～3/4)シルト及びにぶい黄褐色(10YR4/3)シルトが基本となる。

出土した遺物は須恵器壺片1点、土師器高片1点、土師器壺と考えられる破片12点、土師器甕を中心とする破片355点をかぞえるが、この他に縄文時代後期あるいは弥生時代中期と考えられる土器片等が3点(第28図)、礫石器1点(第29図)が出土した。

#### 2. ピット (第10～12図)

計262個のピットが検出された。壁断面にかかるピットはIV層を掘り込んで確認されるものが多く、小溝と切り合う箇所はいずれもピットが新しい。したがって、IV層上面検出遺構の中でも最も新しい遺構と考えられる。平面



道 横	層 位	土 色	土 性	備 考
	4	10YR4/3にぶ、黄褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロック少量。
	6	10YR4/4褐色	シルト	砂質味ある。
	8	10YR3/4暗褐色	シルト	-
	10	10YR3/4褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロック少量。
	12	10YR3/4暗褐色	シルト	-
	14	10YR4/3にぶ、黄褐色	シルト	-
	17	1 10YR4/4褐色 2 10YR4/4褐色 3 10YR5/4にぶ、黄褐色	シルト	10YR3/4暗褐色シルトブロック少量。 10YR3/4暗褐色シルトブロック少量。 砂質味ある。織り目有り。
	20	1 10YR4/3にぶ、黄褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	21	1 10YR4/4褐色	シルト	砂質味ある。
	24	2 10YR3/4暗褐色 3 10YR5/4にぶ、黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR4/4暗褐色シルトブロック主体。 砂質味ある。
	26	1 10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	27	1 10YR4/3にぶ、黄褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色粒子多量。
	32	1 10YR4/3にぶ、黄褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロック少量。
	36	1 10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色粒子少量。
	37	1 10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色粒子少量。
小溝状遺構群3	41	1 10YR4/2黒褐色 45	1 10YR5/4にぶ、黄褐色	グラフィ化斑む。10YR4/3にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。 シルト
	50	1 10YR3/4暗褐色	シルト	-
	53	1 10YR4/3にぶ、黄褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色粒子や多量。
	57	1 10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色粒子多量。
	61	1 10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	64	1 10YR4/3にぶ、黄褐色	シルト	-
	65	1 10YR4/4褐色	シルト	弱いグラフィ化斑多量。
	66	1 10YR4/3暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色土少量。
	67	1 10YR4/4褐色 2 10YR5/4にぶ、黄褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色粒子や多量。 砂質土。
	69	1 10YR4/3暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロック多量。
	70	1 10YR4/3暗褐色 2 10YR4/2暗褐色	シルト	断面C-C'。10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロック少量。 断面C-C'。10YR5/3にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	70	1 10YR4/2暗褐色	粘土質シルト	断面D-D'。グラフィ化斑む。10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	71	1 10YR4/2黒褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックの混合土。
	72	1 10YR4/3暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	73	1 10YR4/3暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	74	1 10YR4/3暗褐色	シルト	10YR5/4にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	75	1 10YR4/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。
	76	1 10YR4/3暗褐色	シルト	10YR5/3にぶ、黄褐色シルトブロックや多量。

第14図 IV層上面小溝状遺構群3断面図

形が円形となるビットが主体となり、径は13~83cmで、30cm前後に集中する。深さは4~67cmであるが、20cm前後に集中している。分布域は調査区全面に広がっているが、北側に集中する傾向が認められ、調査区北端部では西北西~東南東方向の配列性がみられる箇所もある。その他について掘立柱建物跡等のビット配置は認められなかった。堆積土は暗褐色(10YR3/3~3/4)シルトが主体となる。

第2表 IV層上面小溝状遺構群観察表(1)

<>現存値。( )推定値

第3表 双层上面小清状遗模群觀察表(2)

（3）獨立項：（口語中稱

ピットから出土した遺物は土師器片15点、縄文時代後期と考えられる土器片2点、礫石器1点を数える。出土内訳は土師器片がP 10・30・61・121・143・145・146・229・241よりそれぞれ1点、P 129から4点、P 175から2点出土した。縄文時代後期とした土器片はP 87とP 129、礫石器はP 216から出土し、それぞれ第28・29図に示した。ピットの個別の詳細については第4~7表のピット調査表を参照願いたい。

第4表 IV層上面ピット観察表(1)

&lt;&gt;現存組、()推定組

遺構	位置 ( $m \times m$ ) <sup>1)</sup>	規模 cm			堆積土		備考
		長径	短径	深さ	土色	土性	
P1	B-2	26	23	32	10W3/4暗褐色	シルト	-
P2	B-2	25	13	15	10W3/4暗褐色	シルト	-
P3	C-1	18	16	14	10W3/4暗褐色	シルト	-
P4	C-1	35	30	41	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	-
P5	B-2	35	30	19	10W3/3暗褐色	シルト	-
P6	C-1	26	26	16	10W3/3暗褐色	シルト	-
P7	C-1	26	24	15	10W3/3暗褐色	シルト	-
P8	C-1	28	26	19	10W3/3暗褐色	シルト	-
P9	C-2	34	31	18	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	-
P10	C-1	35	30	24	10W3/3暗褐色	シルト	-
P11	B-1	17	16	6	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	-
P12	B-1	23	19	17	10W3/3暗褐色	シルト	-
P13	B-2	49	39	26	10W3/3暗褐色	シルト	-
P14	C-B-2	46	40	29	10W3/3暗褐色	シルト	-
P15	C-1	24	24	16	10W4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	-
P16	B-2	34	28	28	10W3/3暗褐色	シルト	-
P17	B-2	36	C28*	35	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	10W3/3にぶい黄褐色シルトブロックや多量。吸収面A-B。
P18	D-2	25	21	21	10W3/3暗褐色	シルト	-
P19	C-2	19	18	23	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	-
P20	B-2	57	38	38	10W3/3暗褐色	シルト	-
P21	B-2	29	24	18	10W3/3暗褐色	シルト	-
P22	C-2	44	34	23	10W4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	P23と重複。
P23	C-2	45*	38	36	10W3/3暗褐色	シルト	P22とP23Aに重複。
P24	C-2	24	23	14	10W3/3暗褐色	シルト	-
P25	C-2	36	C32*	32	10W3/3暗褐色	シルト	P26と重複。
P26	C-2	52	C24*	24	10W3/3暗褐色	シルト	P25と重複。
P27	C-2	17	17	6	10W4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	-
P28	B-2	43	27	25	10W3/3暗褐色	シルト	-
P29	C-2	36	32	30	10W3/3暗褐色	シルト	Ⅲ層ブロック多量。
P30	C-2	37	36	42	10W3/3暗褐色	シルト	-
P31	C-2	22	18	9	10W3/3暗褐色	シルト	土師瓦片1点。小瀬群3-10-P30。
P32	C-2	29	27	28	10W3/3暗褐色	シルト	-
P33	C-B-2	39	C31*	24	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-14-P35, P36と重複。
P34	C-2	18	18	25	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群6-3~小瀬群3-12-P34。
P35	D-2+3	58	35	14	10W3/3暗褐色	シルト	-
P36	C-2	42	37	48	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群6-1~8-P36。
P37	C-2	19	18	23	10W3/3暗褐色	シルト	-
P38	D-1	19	17	15	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-14-P36。
P39	B-2+3	60	39	37	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-2-P39。
P40	B-3	38	24	27	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-8-P40。
P41	B-3	33	28	26	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-2-P41。
P42	B-3	49	29	33	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-2-P42。
P43	B-3	49	31	34	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-4-P43。
P44	B-3	32	25	13	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-3-P44。
P45	D-2	36	C33*	21	10W4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	小瀬群3-22-P45, P17と重複。
P46	B-3	29	19	17	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	-
P47	B-3+4	33	31	13	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群4-3に接する。
P48	C-3	32	30	29	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-3に接する。
P49	B-3	33	28	24	10W3/3暗褐色	シルト	-
P50	C-3	26	23	29	10W3/3暗褐色	シルト	-
P51	C-3	33	31	41	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-8-P51。
P52	C-3	26	20	32	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-8に接する。
P53	C-3	34	30	36	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-8-P53。
P54	B-3	28	24	11	10W3/3暗褐色	シルト	-
P55	B-3	17	16	27	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-4-P55。
P56	C-3	35	C24*	30	10W3/3暗褐色	シルト	P57と重複。小瀬群6-6に接する。
P57	C-3	28	20	19	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-6~P57, P56と重複。
P58	C-3	34	33	48	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-14に接する。
P59	C-3	30	29	10	10W4/3褐色	シルト	-
P60	B-3	38	32	15	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。しまりやや強い。
P61	C-B-3+4	29	27	60	10W3/3暗褐色	シルト	土師瓦片1点。小瀬群3-17-P61。
P62	B-3	49	35	24	10W3/3暗褐色	シルト	SK2-4W2, 断面図8-19W2。
P63	B-4	22	21	12	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	小瀬群6-11~4W3。
P64	C-4	52	52	15	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-8-P64, P70と重複。
P65	C-4	28	28	38	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-10~4W5。
P66	C-4	26	23	29	10W3/3暗褐色	シルト	-
P67	C-4	39	24	17	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-14-P67, P68と重複。
P68	C-4	24	C21*	10	10W4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	P67と重複。小瀬群6-7と小瀬群3-14に接する。
P69	B-4	18	15	9	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	-
P70	C-4	27	23	38	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	小瀬群3-8-P70, P64と重複。
P71	E-4	31	26	36	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-34-P71。
P72	D-4	51	41	53	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群6-8-P72, 小瀬群3-24に接する。
P73	C-4	23	20	43	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-17-P73。
P74	B-4	32	29	36	10W3/3暗褐色	シルト	小瀬群3-3-P74, 小瀬群4-1に接する。
P75	F-5	32	23	66	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	小瀬群3-39~47%。
P76	D-4+5	31	27	9	10W4/3にぶい黄褐色	シルト	小瀬群3-24に接する。

第5表 IV層上面ピット観察表(2)

&lt;&gt;現存組、( )推定組

遺構	位置 (Y'X')	埋積 cm		土性	堆積土	備考	出土遺物・新旧関係(古→新)
		長径	短径				
P77	D-5	23	21	9	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	面層ブロック少量。
P78	C-5	32	25	42	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P79	C-5	26	24	30	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P80	D-6	36	35	25	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P81	C-6	66	43	34	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P82	C-6	32	31	19	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P83	B-6	33	27	49	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P84	C-6	34	28	24	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P85	C-6	47	46	26	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P86	C-D-2	142	34	30	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P87	C-D-2	47	37	33	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P88	B-4	36	29	38	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P89	D-4	54	39	38	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P90	D-4	44	34	4	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P91	D-4	52	45	12	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P92	C-6	39	34	28	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P93	D-6	23	22	27	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P94	B-6	31	30	34	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P95	B-6	31	29	51	10YR5/3K 黄褐色	シルト	砂質地ある。
P96	E-6	31	30	34	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P97	E-5	35	30	47	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/2K 黄褐色ブロック少量。
P98	E-6	34	33	26	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR6/2K 黄褐色粒子少量。
P99	E-7	26	24	19	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P100	E-7	26	23	23	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P101	E-T	30	24	15	10YR4/3褐色	シルト	-
P102	C-8	26	18	7	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P103	C-8	29	22	14	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P104	D-8	21	20	8	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3に5-1 黄褐色粒子や多量。
P105	E-T-8	36	31	9	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/2K 黄褐色粒子少量。
P106	E-8	33	31	35	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P107	C-9	21	15	10	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P108	C-9	19	18	12	10YR2/3暗褐色	シルト	-
P109	C-9	35	23	15	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P110	C-9	37	31	18	10YR2/3暗褐色	シルト	-
P111	C-9	29	19	17	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P112	C-9	29	26	32	10YR4/3褐色	シルト	V層上ブロック少量。
P113	C-9	33	24	30	10YR4/3褐色	シルト	V層・V層混合土。
P114	C-9	26	17	35	10YR4/3K 黄褐色	シルト	V層・V層混合土。
P115	C-D-9	25	21	32	10YR3/3暗褐色	シルト	V層上ブロック少量。
P116	D-9	34	24	12	10YR3/3暗褐色	シルト	V層上塊状化少量。
P117	D-9	30	28	20	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P118	B-9	35	33	18	10YR4/3に5-1 黄褐色	砂質地。	V層・V層混合土。V層同様状。
P119	B-9	30	28	19	10YR4/3K 黄褐色	シルト	V層・V層混合土。
P120	B-9	28	24	15	10YR3/3暗褐色	シルト	V層上ブロック少量。
P121	B-9	29	18	12	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P122	B-E-9	33	30	21	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P123	E-9	31	29	21	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P124	E-9	19	19	6	10YR3/3褐色	シルト	10YR5/2K 黄褐色粒子や多量。
P125	D-10	25	24	12	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P126	D-10	23	22	15	10YR4/3に5-1 黄褐色	砂質シルト	10YR5/3に5-1 黄褐色粒子や多量。
P127	D-10	45	41	47	10YR3/3暗褐色	シルト	V層上同様状に多量。
P128	D-10	42	39	44	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	下位10YR5/3に5-1 黄褐色粒子多量。
P129	D-E-10	49	35	37	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P130	C-6	38	38	20	10YR4/3褐色	シルト	均質土。
P131	F-T	21	18	10	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P132	D-10+11	35	26	19	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	-
P133	C-9	19	18	12	10YR3/3暗褐色	シルト	-
P134	C-9	20	18	27	10YR3/3暗褐色	シルト	V層上ブロック少量。
P135	E-9	36	28	20	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	下位10YR5/3に5-1 黄褐色粒子多量。
P136	E-9	40	39	30	10YR4/2K 黄褐色	シルト	-
P137	E-9	36	31	15	10YR4/2K 黄褐色	シルト	P138と重複。
P138	E-9	44	49	42	10YR3/3暗褐色	シルト	P137と重複。
P139	E-F-6	37	31	39	10YR3/3暗褐色	シルト	V層上体。V層ブロック少量。
P140	C-9+10	48	39	36	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。
P141	F-10	21	17	22	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。
P142	F-G-9	42	34	14	10YR4/3に5-1 黄褐色	シルト	均質土。
P143	G-9	42	39	25	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3に5-1 黄褐色ブロック少量。
P144	F-G-9	35	31	32	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3に5-1 黄褐色ブロックや多量。
P145	G-9	31	24	20	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。
P146	J-12	40	35	41	7.5YR4/3褐色	シルト	砂分少量。
P147	I-12	29	17	24	10YR3/3暗褐色	シルト	土師器片1点。
P148	I-12	34	32	12	10YR3/3暗褐色	シルト	10YR5/3に5-1 黄褐色ブロック少量。
P149	J-12	43	38	49	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。

第6表 IV層上面ピット観察表(3)

&lt;現存値, ( )推定値

造 備	位 置 (ヤード)	規 模 cm	堆積土			出土遺物、新旧関係(古→新)
			長径	短径	深 S	
P150 J-11・12	38	35	11	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P151 J-11・12	15	13	9	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P152 J-11	17	15	8	10W3/4暗褐色	シルト	—
P153 J-11	44	24	7	10W3/3暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P154 K-12	21	21	29	7. SYW3/1褐色	シルト	部分混入。
P155 K-11	28	19	20	10W3/2暗褐色	シルト	均質土。
P156 K-11	34	26	9	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P157 J-11	18	16	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロック少量。	
P158 K-11	19	19	13	10W3/3暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロック少量。
P159 K-11	38	32	31	10W3/3暗褐色	シルト	—
P160 K-11	<29	<23	13	10W3/3C15-5 黄褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロック多量。
P161 K-10・11	33	19	16	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P162 K-11	東壁42	南北±2D	19	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロックや多量。
P163 H-12	23	23	29	7. SYW3/1褐色	シルト	鉱分混入。
P164 I-11	37	28	36	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P165 I-11	35	27	34	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P166 H-10	23	22	11	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロック少量。
P167 H-11	24	23	26	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P168 H-10	27	23	23	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P169 J-10	26	18	20	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロックや多量。
P170 J-11	52	36	25	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P171 G-8	33	32	37	10W3/3暗褐色	シルト	層剥主体。Y層ブロック少量。
P172 G-8	32	27	11	10W3/4暗褐色	砂質シルト	Y層・V層の混合土。
P173 G-9	23	29	33	10W3/3暗褐色	シルト	Y層主体。
P174 I-9	38	36	21	10W3/3暗褐色	シルト	下位に10W5/2ブロック少量。
P175 I-9・10	30	30	11	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P176 J-10	19	16	22	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P177 J-10	39	29	12	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/2ブロックや多量。
P178 H-9	41	33	29	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P179 J-8	43	43	19	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロックや多量。
P180 J-9	31	30	16	10W3/3C15-5 黄褐色	シルト	10W3/3暗褐色ブロック少量。
P181 G-8・H-7	29	29	31	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P182 H-7	37	28	25	10W3/4暗褐色	シルト	—
P183 H-7	30	27	25	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P184 I-7	42	41	18	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P185 I-7	26	25	15	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロック少量。
P186 I-7	25	20	21	10W3/3C15-5 黄褐色	シルト	均質土。
P187 I-7	25	23	19	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P188 H-6	40	C33	20	10W3/3暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P189 I-6・7	46	37	14	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロック多量。
P190 H-6	37	32	15	10W3/3暗褐色	シルト	下位に10W5/3にない黄褐色粒子多量。
P191 H-6	34	33	21	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロック少量。
P192 G-6	38	30	44	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P193 F-6	39	37	31	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P194 F-7	35	32	27	10W3/3暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P195 H-7	23	29	18	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P196 G-7	31	28	34	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P197 G-6・7	29	29	42	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロックや多量。
P198 G-6	33	22	25	10W3/3暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロックや多量。
P199 F-6	26	20	11	10W3/3C15-5 黄褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子多量。
P200 F-6・G-6	24	21	24	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P201 G-6	52	32	34	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P202 H-6	22	21	29	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P203 H-6	21	29	13	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P204 H-6	18	16	16	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P205 I-6	23	22	31	10W3/3C15-5 黄褐色	シルト	下位に10W5/3にない黄褐色粒子多量。
P206 D-8	17	15	13	10W3/3暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P207 G-9	35	31	17	10W3/3暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P208 I-11	43	32	21	10W3/3暗褐色	シルト	下位に10W5/3にない黄褐色ブロック少量。
P209 E-9	36	31	24	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。斑状鉄鉱。
P210 H-8	29	26	33	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色粒子少量。
P211 E-10	(7)	C12	31	10W3/3暗褐色	シルト	Y層主体。
P212 C-8	21	18	12	10W3/3C15-5 黄褐色	砂質シルト	Y層・V層の混合土。
P213 C-9	(21)	(11)	14	10W3/3暗褐色	シルト	Y層主体。粘性強い。
P214 G-8	26	26	15	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P215 H-8	30	28	21	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P216 I-7	30	29	17	10W3/4暗褐色	シルト	均質土。
P217 H-6	C13	30	43	10W3/4暗褐色	シルト	10W5/3にない黄褐色ブロックや多量。
P218 H-6	(47)	C20	67	10W3/3暗褐色	シルト	—
P219 C-3	29	28	19	10W3/3暗褐色	シルト	Y層主体。Y層土ブロック少量。
P220 D-4	37	25	19	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。
P221 C-5・6	25	23	28	10W3/3C15-5 黄褐色	砂質シルト	均質土。
P222 E-7	(27)	24	24	10W3/3C15-5 黄褐色	砂質シルト	均質土。
P223 H-6	43	31	53	10W3/3暗褐色	シルト	均質土。10W5/3にない黄褐色ブロック少量。S03→小溝群3-75-P223。

第7表 IV層上面ピット観察表(4)

(○)現存値、(×)推定値

遺構	位置 (Y+Z)	規格(cm)			土色	土性	堆積土	備考	出土遺物・新旧関係(古→新)
		長径	短径	深さ					
P224	J-10	25	24	21	10YR4/4褐色	砂質シルト	IV層土体だが断面状にV層少量。	—	—
P225	H-10	27	26	11	10YR3/3にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3にぶい黄褐色粒子多量。	SII-P226、断面図層1回。	—
P226	H-9	23	20	9	10YR3/3褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子多量。	小溝群2-2に接する。	—
P227	D-3	45	30	46	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/3褐色	小溝群3-17-P227、P228とP230に重複。	—
P228	D-3	31	27	27	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3褐色	小溝群3-17-P228、P227とP230に重複。	—
P229	D-3	33	30	25	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	V層土体。	土師器2片点、P228と重複。	—
P230	D-3	39	30	18	10YR4/4褐色	シルト	10YR3/3褐色	小溝群3-17-P228、P227と重複。	—
P231	D-3	23	21	18	10YR3/4褐色	シルト	IV層土体。V層土体現状に少量。	小溝群6-6-P231。	—
P232	D-4	29	21	24	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	IV層土体。	小溝群6-7-P232。	—
P233	I-12	27	22	29	10YR4/2黄褐色	シルト	グラ化進む。粘性高い。	調査区南側にかかる。	—
P234	C-2	25	19	16	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	—	小溝群6-1-P234、P23と重複。	—
P235	C-2	32	27	39	10YR3/2褐色	シルト	—	小溝群6-3-P235。	—
P236	C-2-2	44	38	28	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	V層・IV層現状に混合。	小溝群6-3-P236、P33と重複。	—
P237	B-3	21	18	20	10YR3/3褐色	シルト	IV層土体。	小溝群6-4-小溝群3-22-P237。	—
P238	B-3	31	29	23	10YR3/3褐色	シルト	V層土体。V層状のV層土体少量。	小溝群6-7-P238。	—
P239	C-4	24	23	18	10YR3/4褐色	シルト	IV層土体。粘化粒少量。	小溝群6-8-P239。	—
P240	C-4	30	26	22	10YR3/4褐色	シルト	IV層土体。根混乱か?	小溝群3-8-P240。	—
P241	C-4	(47)	36	30	10YR3/4褐色	シルト	IV層土体。根混乱か?	土師器1点、小溝群3-B-P241、P242と重複。	—
P242	C-4	(31)	24	23	10YR3/4褐色	シルト	IV層土体。根混乱か?	P241と重複。	—
P243	C-6	22	19	30	10YR3/4褐色	シルト	IV層土体。根混乱か?	P244と重複。	—
P244	C-6	34	23	18	10YR4/3にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土体。V層土体粒子多量。	P243と重複。	—
P245	G-6	31	29	31	10YR3/4褐色	シルト	IV層土体。	小溝群3-67-P245。	—
P246	G-6-H	26	24	12	10YR3/4褐色	シルト	V層粒子少量。	小溝群3-70-P246。	—
P247	F-10	24	23	19	10YR4/3にぶい黄褐色	シルト	10YR3/3褐色	小溝群3-66に接する。	—
P248	C-5	22	19	29	10YR3/3褐色	シルト	—	小溝群1-5-P248、小溝群6-15に接する。	—
P249	C-6	18	18	9	10YR3/4褐色	シルト	—	小溝群1-7-P249。	—
P250	C-6	28	27	17	10YR3/3褐色	シルト	—	—	—
P251	B-6	21	21	20	10YR3/3褐色	シルト	—	—	—
P252	D-10	35	32	22	10YR3/4褐色	シルト	—	—	—
P253	E-9	29	27	17	10YR3/3褐色	シルト	—	P255と重複。	—
P254	E-9	36	31	24	10YR3/4褐色	シルト	—	P255と重複。	—
P255	E-9	31	24	20	10YR3/3褐色	シルト	10YR5/3にぶい黄褐色粒子少量。	小溝群3-56-P255、P253とP254と重複。	—
P256	F-6	(44)	33	18	10YR3/3褐色	—	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックの混合土。	小溝群3-50-P256。	—
P257	G-6	83	64	62	10YR3/3褐色	シルト	—	SD3-8-小溝群3-70-P257。	—
P258	J-8	27	18	22	10YR3/3褐色	シルト	壁断面H-H(第4回)。	調査区東側にかかる。	—
P259	G-10	21	<10	12	10YR3/4褐色	シルト	壁断面M-M(第4回)。	上部残丘に接する。調査区南側にかかる。	—
P260	H-4	34	31	21	10YR3/3褐色	シルト	—	小溝群4-1-小溝群3-3-P260。	—
P261	J-9	27	25	14	10YR3/3褐色	—	10YR5/3にぶい黄褐色ブロックの混合土。	小溝群5-31-P261。	—
P262	F-10	RCR60	南北22	29	10YR3/3褐色	シルト	—	北側残丘に接する。	—

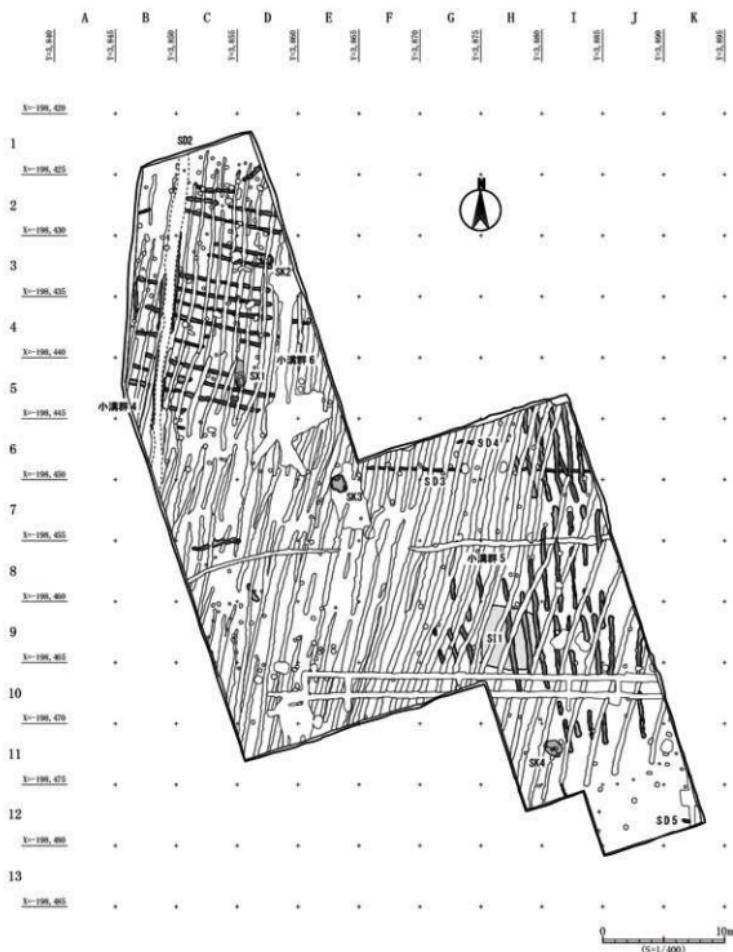
## 第3節 Va層上面検出遺構

Va層上面検出遺構は、堅穴住居跡1軒、小溝状遺構群3群（小溝群4～6）、溝跡4条（SD2～5）、土坑3基（SK2～4）、性格不明遺構1基（SX1）である。小溝群4は溝3条のみであるが、西側調査区外に延びる小溝群の可能性をもつた小溝群とした。これら検出遺構は、直接の重複と基本層との関係から3段階に分かれる。最も新しい段階は小溝群4・5とSK2、次に古い段階は小溝群6、最も古い段階はSII-1堅穴住居跡である。SK3・4はVa層中における直接の重複がないためどの段階に属すか不明である。

## 1. 小溝状遺構群

## 小溝状遺構群4（第16図、図版2-2）

調査区北西側のB-3～5グリッド付近に検出され、SD2、小溝群3、P74・260に切られ、小溝群6を切る。小溝群4-1～3により構成され、方向は平均してN-3°-Eを向く。全長は小溝群4-1が3.43m、4-2が12.72m、4-3が14.60mを測る。上端幅13～40cm、下端幅4～25cm、深さは12～14cmである。断面形はU字形が主体で、堆積土は4-1・2がにぶい黄褐色（10YR4/3）シルト、4-3がにぶい黄褐色砂質（10YR5/3）シルトとなる。小溝間の心々間隔は4-1と4-2間が2.2m、4-2と4-3間が1m前後となる。遺物は土師器片1点が出土した。



第15図 Va層上面全体図

## 小溝状遺構群 5（第17図、図版2-3）

調査区東側のG～J-5～11グリッド内に検出された。小溝群2と3及びSD1に切られ、SD3とS11を切る。また、P 174・175・176・179・184・186・187・189・205・261に切られる。小溝群5-1～36により構成され、検出範囲は長軸方向28.3m、その直交軸で17.2mとなる。各小溝の方向はN-2°-W～N-21°-Wの中に收まり、平均してN-9°-Wとなる。なお、I-6・7グリッドで小溝群5-6と交差する小溝群5-5は小溝群5の方向性と異なるものであるが、地区内に同類の小溝群となるものが見あたらぬため、今回は

小溝群 5 に含めている。今後必要に応じて分離も必要であろう。

小溝群 5 の上端幅は 11~61 cm、下端幅 2~44 cm、深さ 5~40 cm である。溝間の間隔は溝列の最も揃う H~J-9 グリッドで心々間隔 1.08~1.29 m である。断面形は U 字形が基本となり台形となる部分もみられる。堆積土は暗褐色 (10YR3/3~3/4) シルトが主体となり、にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトや灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質シルトあるいは褐色 (10YR4/4) 砂質シルトとなる部分もみられる。遺物は土師器の小型壺とみられる破片 1 点と甕片を中心 44 点が出土した。

#### 小溝状遺構群 6 (第 18 図、図版 3-2)

B~E-1~6 グリッド内に小溝群 6-1~18・21 が位置し、C・D-7・8 グリッド内に 6-19・20 が位置する。小溝群 1・3・4・SX 1 及び P 36・56・62・66・72・89~91・231・232・234~239・248 に切られる。本群北側にある 6-18、6-21 及び南側に遊離する 6-19・20 は方向性が異なり分離する必要もあるようが、今回は最も古い小溝として本群に含めた。溝列の揃う小溝群 6-1~16 は溝の長軸方向で 14.7 m、その直交方向で 20 m の範囲に広がる。方向は N-77°-W から N-85°-W の中に收まり、平均して N-79°-W となる。6-1~16 は上端幅 13~61 cm、下端幅 4~35 cm、深さ 4~30 cm を測り、溝間の間隔は部分的に 1.8~2.0 m に広がる箇所があるが、心々距離で 1.1~1.3 m のほぼ等間隔が基本となっている。遺物は土師器片が 1 点出土した。

## 2. 溝 跡

#### SD 2 溝跡 (第 16 図、図版 12-1)

C-2~B-7 グリッドにかけて推定される溝であり、第 16 図に推定線で示している。調査時点では弱い帯状グライ化部分と判断したため完掘には至っていない。検出長は 27.8 m で調査区外にかけて南北方向に延びている。調査区北壁の壁面 1 で観察すると (写真図版 12-1)、上端幅 80 cm 前後を測り、深さは 19 cm まで確認した。断面形は台形状が推定でき、堆積土は上層が褐色 (10YR6/1) シルト、下層とみられる部分はにぶい黄褐色 (10YR5/3) シルトである。

#### SD 3 (第 4・19 図、図版 4-2)

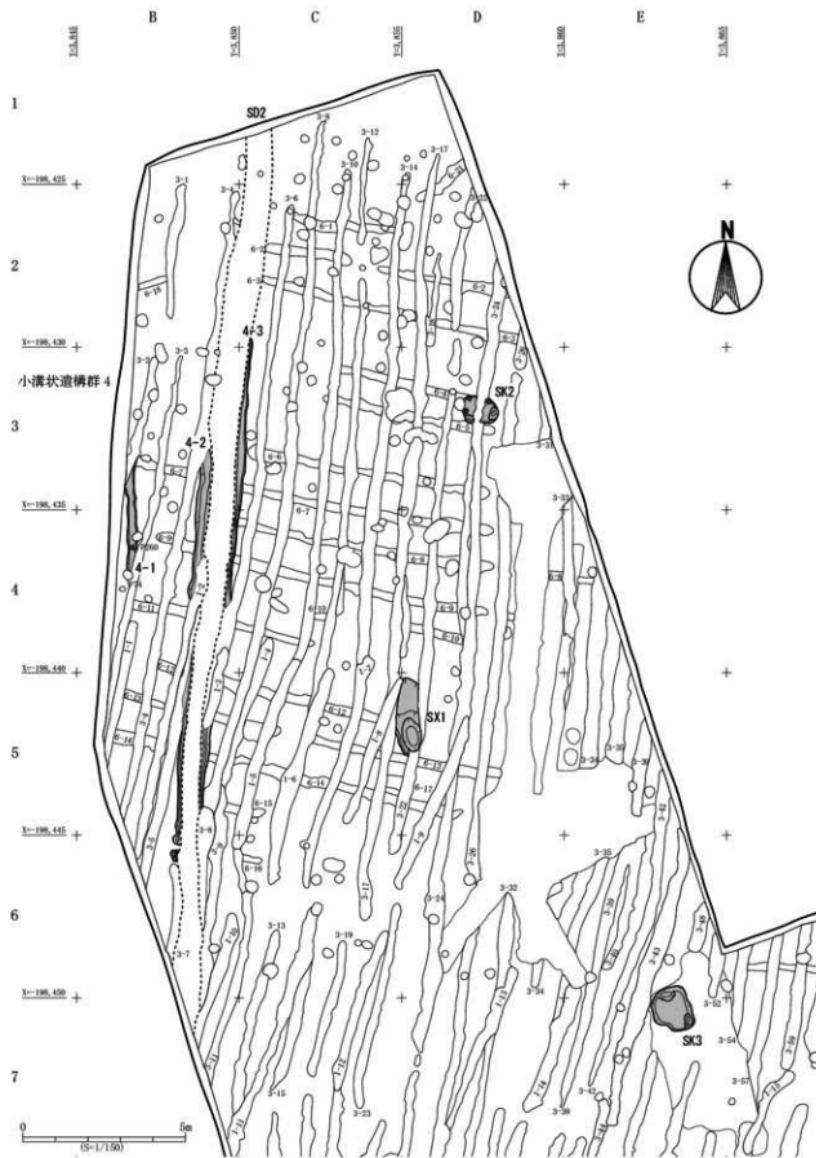
F~I-1~6 グリッドに位置し、小溝群 3・5・P 223・257 に切られる。中央で途切れるが 18.32 m の検出長で、N-89°-W と東西に直線的に延びる。上端幅 14~50 cm、下端幅 3~29 cm、深さ 16 cm を測る。第 4 図の壁断面に示したように断面形は皿形で、堆積土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトである。遺物は出土していない。

#### SD 4 (第 19 図、図版 4-2)

G-6 グリッドに位置し、小溝群 3 に切られる。検出長 1.34 m、上端幅 14~32 cm、下端幅 5~21 cm、深さ 19 cm で、方向はほぼ東西方向を向き、SD 3 と平行するようにも見受けられる。断面形は皿形で、堆積土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) シルトである。遺物は出土していない。

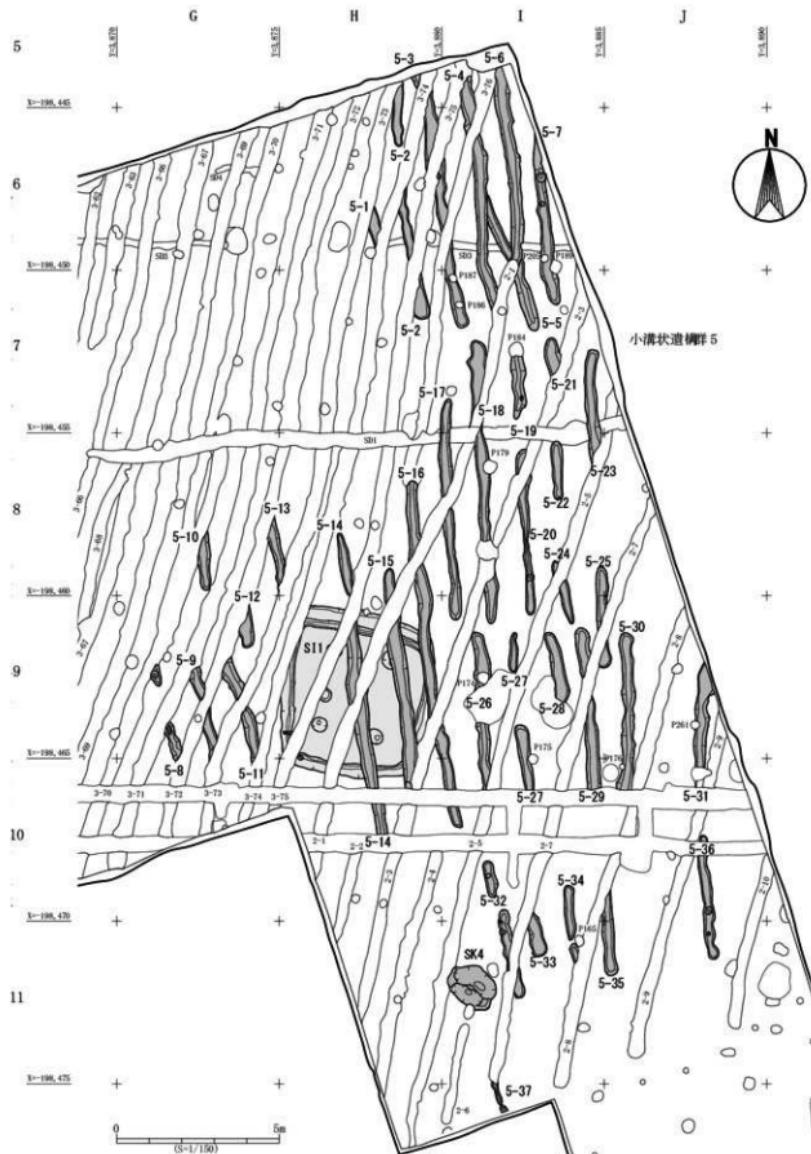
#### SD 5 (第 15 図)

K-12 グリッドに位置し、東側に搅乱を受ける。位置的にみて小溝群には組み込まれない単独のあり方であり、堆積土も小溝群にみられる IV 層を基本としたものではないため溝跡とした。検出長 0.64 m、上端幅 19~23 cm、下端幅 9~10 cm、深さ 6 cm である。断面形は皿形で、堆積土は褐色 (10YR4/4) 粘土質シルトで、径 2~4 mm の炭化物を含んでいる。遺物は土師器片 1 点が出土した。

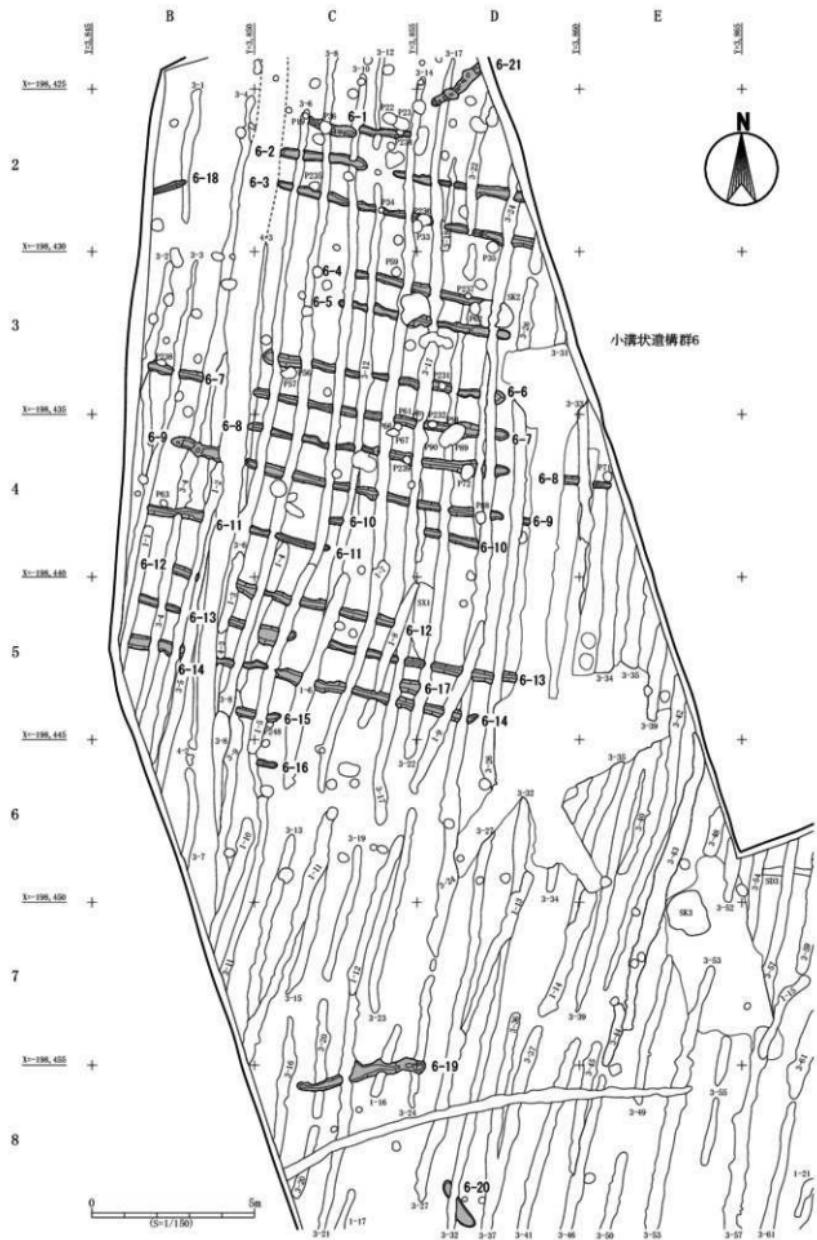


第16図 Va層上面造構平面図(小溝群4、SD2、SK2・3、SX1)

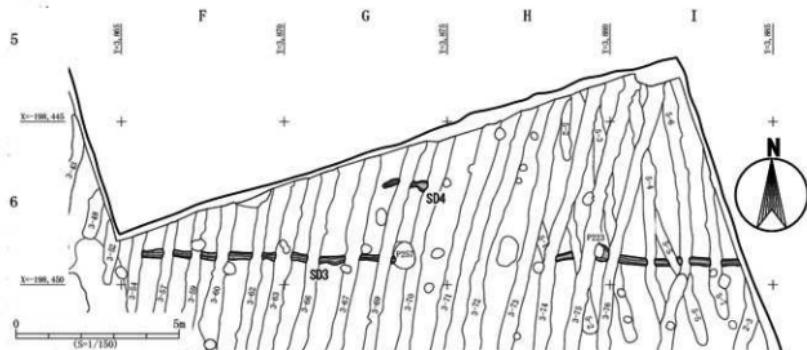
第3節 Va層上面検出遺構



第17図 Va層上面遺構平面図(小溝群5、SK4、S11)



第18図 Va層上面造構平面図(小溝群6)

第19図 V<sub>a</sub>層上面遺構平面図 (SD 3-4)

### 3. 土 坑

#### SK 2 土坑 (第16・20図、図版9-3・4)

D-3 グリッドに位置する。小溝群3-24とP62に切られ、小溝群6-4・5を切る。平面形は梢円形で、規模は115×87 cm、深さ8 cmである。長軸方向はN-72°-Wを向く。断面形は皿形で、底面中央はほぼ平坦であるが、壁際に窪みが5箇所認められる。堆積土は3層に分層され、1層が暗褐色シルト(10YR3/4)、2層がにぶい黄褐色(10YR5/3)砂質シルト、3層が暗褐色(10YR3/4)シルトである。遺物は出土していない。

#### SK 3 土坑 (第16・20図、図版9-5・6)

E-6・7 グリッドに位置し、上部に搅乱を受けている。平面形は不整梢円形で、規模は140×121 cm、深さ22 cmである。長軸方向はN-20°-Wを向く。堆積土は3層に分層され、1層が暗褐色(10YR3/4)シルト、2層が暗褐色(10YR3/3)シルト、3層がにぶい黄褐色(10YR4/3)砂質シルトで、1層はブロック混合土、2層は弱くグライ化を受けた均質土、3層はV<sub>a</sub>層崩落土と考えられる。遺物は出土していない。

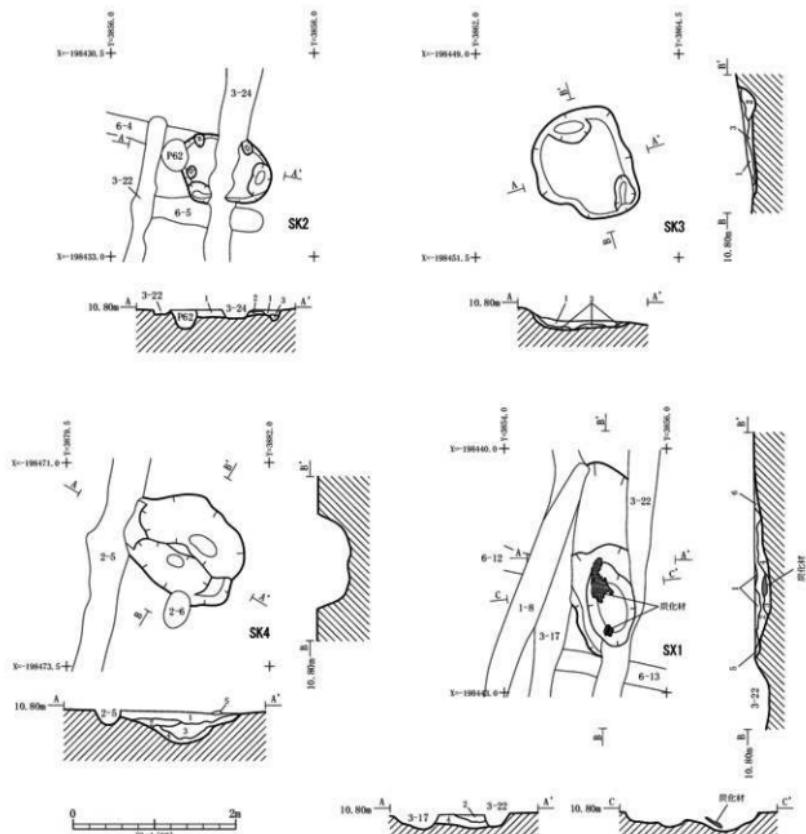
#### SK 4 (第17・20図、図版9-7・8)

I-11 グリッドに位置し、小溝群2-5・6に切られる。平面形は不整梢円形であり、規模は長軸方向が検出長152 cm、直交軸が121 cm、深さ41 cmである。堆積土は4層に分層され、1・2層が褐色(10YR4/4)シルト、3層がにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト、4層がにぶい黄褐色(10YR5/3)シルトである。2～4層にはV<sub>a</sub>層粒子が混入するが、とくに3・4層が顕著である。遺物は土師器小片10点、縁6点が出土した。土師器の中には小型丸底壺と考えられる破片1点が含まれ、その他は土師器甕と思われる口縁部、胴部、底部片である。

### 4. 性格不明遺構

#### SX 1 (第16・20図、図版12-4・5)

C-D-5 グリッドに位置する。小溝群1-8、3-17・22に切られ、小溝群6-13を切る。平面形は梢円形と推測され、現存する長軸長235 cm、短軸長は77 cm、深さは20 cmである。掘り込み内からは炭化材や焼土が出土したが、底面や壁面の被熱状況は明瞭には観察できず、掘り込み内で焼成行為等が行われたかは不明である。堆



遺構	層位	土色	土性	図考
SK2	1	10YR3/3暗褐色	シルト	IV. 純土体。
	2	10YR5/3C灰い黄褐色	砂質シルト	V. 剥離落土。
	3	10YR5/3暗褐色	砂質シルト	IV. 純土体。
SK3	1	10YR4/3褐色	シルト	10YR4/3に5ら、黄褐色シルトブロック・10YR3/3暗褐色シルトブロック・10YR6/1褐色灰色シルトブロックの混合土。縦まりやや強め。
	2	10YR3/3暗褐色	シルト	均質土。弱いグライ化済む。
	3	10YR4/3C灰い黄褐色	シルト	V. 剥離落土？
SK4	1	10YR4/3褐色	シルト	縦まり強く、粒もやや細い。
	2	10YR4/3褐色	シルト	V.a層粘子灰土、上層より色調内で明るい。縦まり・粘性ある。
	3	10YR4/3C灰い黄褐色	シルト	V. a層粘子多量。
SX1	4	10YR5/3C灰い黄褐色	シルト	砂質塊ある。V. a層粘子多量。縦まりやや弱く、粘性ある。
	1	10YR3/3褐色	シルト	均化粘性弱。均土粘混量。縦まり・粘性ある。
	2	10YR4/3C灰い黄褐色	シルト	均化粘・均化粘材・均土粘多量。焼土粒やや多量。径5~8mmの焼土小ブロックやや多量。縦まり・粘性ある。
	3	10YR5/3褐色	シルト	均化粘性弱。均土粘多量。焼土粒多量。縦まり・粘性ある。
	4	10YR5/3暗褐色	粘土質シルト	均化粘性弱。均土粘多量。縦まり・粘性あり。
	5	10YR5/3C灰い黄褐色	シルト	10YR5/3に5ら、黄褐色粘子多量。縦まり・粘性ある。
	6	10YR5/3褐色	紅土質シルト	10YR5/3に5ら、黄褐色粘子多量。縦まりあり・粘性やや強め。

第20図 SK2～4土坑、SX1性格不明遺構平面・断面図

表8表 V a層上面に検出遭構

小集群番号	位置 ( $\lambda^{\circ}, \phi^{\circ}$ )	規模(全長m, 高m)			方向	堆積土	出土遺物・新旧関係(古～現)・備考		
		全長	上端幅	下端幅					
1	B-3+4	3.43	25~36	13~22	14	N-7°-W	西明断面		
	B-3+4	12.73	13~40	4~25	12	S-4°-E	Y-2	10Y34/3 シルト 10Y34/2 シルト 10Y34/1 シルト	
	B-3+4	14.60	10~31	3~20	12	S-6°-E	Y-3	10Y35/3 シルト 10Y35/2 シルト 10Y35/1 シルト	
2	B-3~7	0.59	37~38	29~31	5	S-21°-W	H-6	10Y36/3 シルト 10Y36/2 シルト 10Y36/1 シルト	
	B-3~7	7.09	21~40	13~39	12	S-9°-W	H-6	10Y37/3 シルト 10Y37/2 シルト 10Y37/1 シルト	
3	B-3+6, 1-6+7	7.80	25~61	17~28	27	S-16°-W	1~6	10Y38/3 シルト 10Y38/2 シルト 10Y38/1 シルト	
	1-6+7	7.07	32~44	11~34	15	S-7°-W	1~6	10Y39/3 シルト 10Y39/2 シルト 10Y39/1 シルト	
4	B-3~7	4.27	29~44	9~19	18	S-25°-W	1~7	10Y40/3 シルト 10Y40/2 シルト 10Y40/1 シルト	
	B-3+6	0.00	31~48	14~28	13	S-17°-W	1~5	10Y41/3 シルト 10Y41/2 シルト 10Y41/1 シルト	
7	I-6+7	5.20	28~46	12~26	31	S-7°-W	1~6	10Y42/3 シルト 10Y42/2 シルト 10Y42/1 シルト	
	B-3~10	0.95	24~35	12~19	11	S-20°-W	G-9	10Y43/4 シルト 10Y43/3 シルト 10Y43/2 シルト 10Y43/1 シルト	
9	G-9+10	2.42	32~36	13~23	17	S-14°-W	G-9	10Y44/4 シルト 10Y44/3 シルト 10Y44/2 シルト 10Y44/1 シルト	
	G-8	1.77	29~36	15~25	11	S-6°-W	G-8	10Y45/4 シルト 10Y45/3 シルト 10Y45/2 シルト 10Y45/1 シルト	
11	G-9+10	2.91	31~47	16~26	13	S-19°-W	G-9	10Y46/4 シルト 10Y46/3 シルト 10Y46/2 シルト 10Y46/1 シルト	
	G-9	0.85	36~44	25~36	12	S-7°-W	G-9	10Y47/4 シルト 10Y47/3 シルト 10Y47/2 シルト 10Y47/1 シルト	
13	B-8+9	1.51	29~37	12~24	11	S-13°-W	G-8	10Y48/4 シルト 10Y48/3 シルト 10Y48/2 シルト 10Y48/1 シルト	
	B-8+10	9.33	27~58	10~29	22	S-9°-W	S11断面	10Y49/4 シルト 10Y49/3 シルト 10Y49/2 シルト 10Y49/1 シルト	
14	B-8+10	6.76	36~50	21~32	22	S-9°-W	S11断面	10Y50/4 シルト 10Y50/3 シルト 10Y50/2 シルト 10Y50/1 シルト	
	B-8+10, I-9+10	10.72	29~45	18~29	22	S-6°-W	S11断面	10Y51/4 シルト 10Y51/3 シルト 10Y51/2 シルト 10Y51/1 シルト	
17	B-7+8, 1-7+9	6.79	23~36	8~23	17	S-7°-W	1~7	10Y52/4 シルト 10Y52/3 シルト 10Y52/2 シルト 10Y52/1 シルト	
	I-7~9	8.69	20~45	11~44	17	S-2°-W	1~7	10Y53/4 シルト 10Y53/3 シルト 10Y53/2 シルト 10Y53/1 シルト	
19	B-7+9	1.96	23~36	11~15	27	S-6°-W	1~9	10Y54/4 シルト 10Y54/3 シルト 10Y54/2 シルト 10Y54/1 シルト	
	B-8+9	5.98	11~29	2~19	15	S-2°-W	1~7	10Y55/4 シルト 10Y55/3 シルト 10Y55/2 シルト 10Y55/1 シルト	
21	I-7	1.00	33~35	19~22	14	S-10°-W	1~2	10Y56/2 シルト 10Y56/1 シルト	
	I-8	1.17	24~34	11~23	16	S-6°-W	1~8	10Y57/4 シルト 10Y57/3 シルト 10Y57/2 シルト 10Y57/1 シルト	
22	I-7+8	3.49	30~36	19~27	40	S-7°-W	2(濃度A-B) <sup>a</sup>	10Y58/4 シルト 10Y58/3 シルト 10Y58/2 シルト 10Y58/1 シルト	
	I-8+9	2.00	19~31	7~21	8	S-14°-W	1~8	10Y59/4 シルト 10Y59/3 シルト 10Y59/2 シルト 10Y59/1 シルト	
25	I-8+9, J-9+10	3.12	30~36	15~26	22	I-4	S-2°-W	1~9	10Y60/4 シルト 10Y60/3 シルト 10Y60/2 シルト 10Y60/1 シルト
	I-9+10	4.63	31~52	11~36	26	S-6°-W	1~9	10Y61/4 シルト 10Y61/3 シルト 10Y61/2 シルト 10Y61/1 シルト	
27	I-9+10	4.85	17~40	4~32	14	S-17°-W	1~9	10Y62/4 シルト 10Y62/3 シルト 10Y62/2 シルト 10Y62/1 シルト	
	I-9	2.18	34~45	22~34	13	S-17°-W	1~9	10Y63/4 シルト 10Y63/3 シルト 10Y63/2 シルト 10Y63/1 シルト	
29	I-9+10	4.98	29~42	15~25	16	S-6°-W	1~9	10Y64/4 シルト 10Y64/3 シルト 10Y64/2 シルト 10Y64/1 シルト	
	I-9+10	4.89	27~42	9~27	28	S-17°-W	1~9	10Y65/4 シルト 10Y65/3 シルト 10Y65/2 シルト 10Y65/1 シルト	
31	I-9+10	3.24	29~46	13~41	28	S-7°-W	F-9	10Y66/4 シルト 10Y66/3 シルト 10Y66/2 シルト 10Y66/1 シルト	
	I-10+11	4.32	30~35	11~27	15	S-15°-W	F-10	10Y67/4 シルト 10Y67/3 シルト 10Y67/2 シルト 10Y67/1 シルト	
32	I-10+11	1.96	41~45	26~38	9	S-19°-W	F-10	10Y68/4 シルト 10Y68/3 シルト 10Y68/2 シルト 10Y68/1 シルト	
	I-10+11	2.36	28~31	11~21	16	S-6°-W	F-10	10Y69/4 シルト 10Y69/3 シルト 10Y69/2 シルト 10Y69/1 シルト	
35	I-10+11, J-10+11	2.49	39~39	14~24	12	S-6°-W	F-10	10Y70/4 シルト 10Y70/3 シルト 10Y70/2 シルト 10Y70/1 シルト	
	J-10+11	3.01	21~33	10~26	18	S-7°-W	F-10	10Y71/4 シルト 10Y71/3 シルト 10Y71/2 シルト 10Y71/1 シルト	
37	I-12	11.20	29~40	9~21	31	S-21°-W	F-12	10Y72/4 シルト 10Y72/3 シルト 10Y72/2 シルト 10Y72/1 シルト	
	C-2	2.14	18~35	7~15	22	S-8°-W	C-2	10Y73/4 シルト 10Y73/3 シルト 10Y73/2 シルト 10Y73/1 シルト	
38	C+B-2	7.00	13~42	8~24	12	S-7°-W	C-2	10Y74/4 シルト 10Y74/3 シルト 10Y74/2 シルト 10Y74/1 シルト	
	C+B-2	8.98	15~36	5~21	16	S-17°-W	C-2	10Y75/4 シルト 10Y75/3 シルト 10Y75/2 シルト 10Y75/1 シルト	
44	C+B-3	3.91	39~30	9~18	7	S-17°-W	C-3	10Y76/4 シルト 10Y76/3 シルト 10Y76/2 シルト 10Y76/1 シルト	
	C+B-3	5.38	16~35	8~21	16	S-19°-W	C-3	10Y77/3 シルト 10Y77/2 シルト 10Y77/1 シルト	
46	C+B-3	7.50	29~38	8~17	22	S-18°-W	C-3	10Y78/4 シルト 10Y78/3 シルト 10Y78/2 シルト 10Y78/1 シルト	
	B-3, C-3+4, D-4	11.19	20~52	6~36	11	S-78°-W	B-3	10Y79/4 シルト 10Y79/3 シルト 10Y79/2 シルト 10Y79/1 シルト	
48	B+C-D	11.27	14~35	4~14	13	S-81°-W	B-4	10Y80/4 シルト 10Y80/3 シルト 10Y80/2 シルト 10Y80/1 シルト	
	B+C-D	11.32	22~37	6~20	36	S-77°-W	C-4	10Y81/4 シルト 10Y81/3 シルト 10Y81/2 シルト 10Y81/1 シルト	
49	C-D-4	4.62	20~27	7~13	14	S-82°-W	C-4	10Y82/4 シルト 10Y82/3 シルト 10Y82/2 シルト 10Y82/1 シルト	
	C-D-4	5.71	19~34	6~21	8	S-78°-W	B-4	10Y83/4 シルト 10Y83/3 シルト 10Y83/2 シルト 10Y83/1 シルト	
52	B-4+5, C-5	6.97	27~42	10~21	12	S-77°-W	B-5	10Y84/4 シルト 10Y84/3 シルト 10Y84/2 シルト 10Y84/1 シルト	
	B-4+5, C-5	11.06	19~61	8~35	14	S-78°-W	B-5	10Y85/4 シルト 10Y85/3 シルト 10Y85/2 シルト 10Y85/1 シルト	
53	B+C-D-5	10.89	18~45	8~24	15	S-78°-W	C-5	10Y86/4 シルト 10Y86/3 シルト 10Y86/2 シルト 10Y86/1 シルト	
	B+C-D-5	1.25	24~29	10~15	12	S-84°-W	C-5	10Y87/4 シルト 10Y87/3 シルト 10Y87/2 シルト 10Y87/1 シルト	
56	C-6	0.59	16~39	6~9	4	S-81°-W	C-6	10Y88/4 シルト 10Y88/3 シルト 10Y88/2 シルト 10Y88/1 シルト	
	C-6	0.46	39~44	14~22	17	S-80°-W	D-5	10Y89/4 シルト 10Y89/3 シルト 10Y89/2 シルト 10Y89/1 シルト	
58	B-2	0.91	17~21	5~6	8	S-73°-W	R-2	10Y90/2 シルト 10Y90/1 シルト	
	C-7+N, D-7+N	3.98	21~39	6~45	21	S-74°-W	C-8	10Y91/4 シルト 10Y91/3 シルト 10Y91/2 シルト 10Y91/1 シルト	
59	B-8	1.62	29~42	24~34	5	S-30°-W	D-8	10Y92/4 シルト 10Y92/3 シルト 10Y92/2 シルト 10Y92/1 シルト	
	B-8+1~2	1.04	24~41	4~36	33	S-50°-W	B-8	10Y93/4 シルト 10Y93/3 シルト 10Y93/2 シルト 10Y93/1 シルト	

積土は6層に分層され、とくに3層中に炭化材や焼土ブロック・焼土粒が集中している。土器類は出土していない。

## 5. 堅穴住居跡

### S I 1 堅穴住居跡 (第 17・21~23 図、図版 6 ~ 8)

〔位置・新旧関係〕 H-9・10 グリッドに位置し、小溝群 2・3・5、P 226 に切られる。平面形は隅丸方形で、炉の位置からみて主軸方位は N-80°-W とほぼ東西方向を向いている。規模は主軸方向で 4.56 m、その直交軸で 5.09 m、深さ 30 cm である。

〔堆積土〕 床面までの堆積土は 6 層に分層されるが、土色・土性の差により大きく 1 層と 2 ~ 6 層に分けられる。下位の 2 ~ 6 層は灰黄褐色あるいはぶい黄褐色シルトで黄褐色砂粒を含んでおり、床面上から壁際にかけて流入した第 1 次堆積土としてまとめることができる。上位の 1 層は比較的 IV 層に近い暗褐色シルトで、グライ化したにぶい黄褐色土シルトブロックをやや多量含むことより人為的埋め土とも見受けられるものである。

〔床面・壁面〕 床面は掘り方埋め土により作られる。堆積土と掘り方埋め土層の境は綺麗な土色の差がそれほどないが、炉・柱穴・間仕切り状の溝、あるいは黒褐色床範囲の確認面となうことより床面と認定した。この床面では周溝が部分的に確認されている。壁は直線的に開いて立ち上がり、東壁と西壁はさらに外側に掘り方を伴うものであった。この掘り方の底面は床面に平坦であり、掘り方完掘時の平面形は一回り大きくなる隅丸方形であった。この壁裏掘り方の土層状態にはぶい黄褐色シルトが主体土となる。

〔柱穴・周溝〕 主柱穴 P 1 ~ 4 が整然と長方形に配置される 4 本柱構造となる。平面形は円形もしくは橢円形となり、径 36 ~ 56 cm、深さは P 1 が 51 cm、P 2 が 45 cm、P 3 が 57 cm、P 4 が 40 cm である。P 3 には柱痕跡が確認できたが、P 1 と P 2 の断面もその可能性がある。また、床下掘り方調査の際に深さ 8 cm ~ 21 cm のピット状の落ち込みを 3 個確認したが、配置と規模からみて建て替え等に関連するものではない。周溝は幅 20 ~ 25 cm、深さ 5 ~ 25 cm で巡り、断面形は U 字形である。住居北側の周溝は壁の内側に巡っている。7 ~ 10 層が周溝堆積土であり、いずれも砂質味を帯びたにぶい黄褐色シルトである。この周溝内の上部には掘り方埋め土層の一部がのつており、住居使用時に開口していなかった可能性も考えられる。その場合、壁板等の施設が想定できるが断面等にそれを示す痕跡は認められなかった。

〔炉〕 P 1 と P 4 の中に配置され、規模は径 55 × 39 cm、深さ 5 cm である。堆積土は暗褐色シルトで、炭化粒を微量含む。底面に被熱による硬化はない。P 5 は炉下ピットであり、規模は径 38 × 29 cm、深さ 26 cm である。

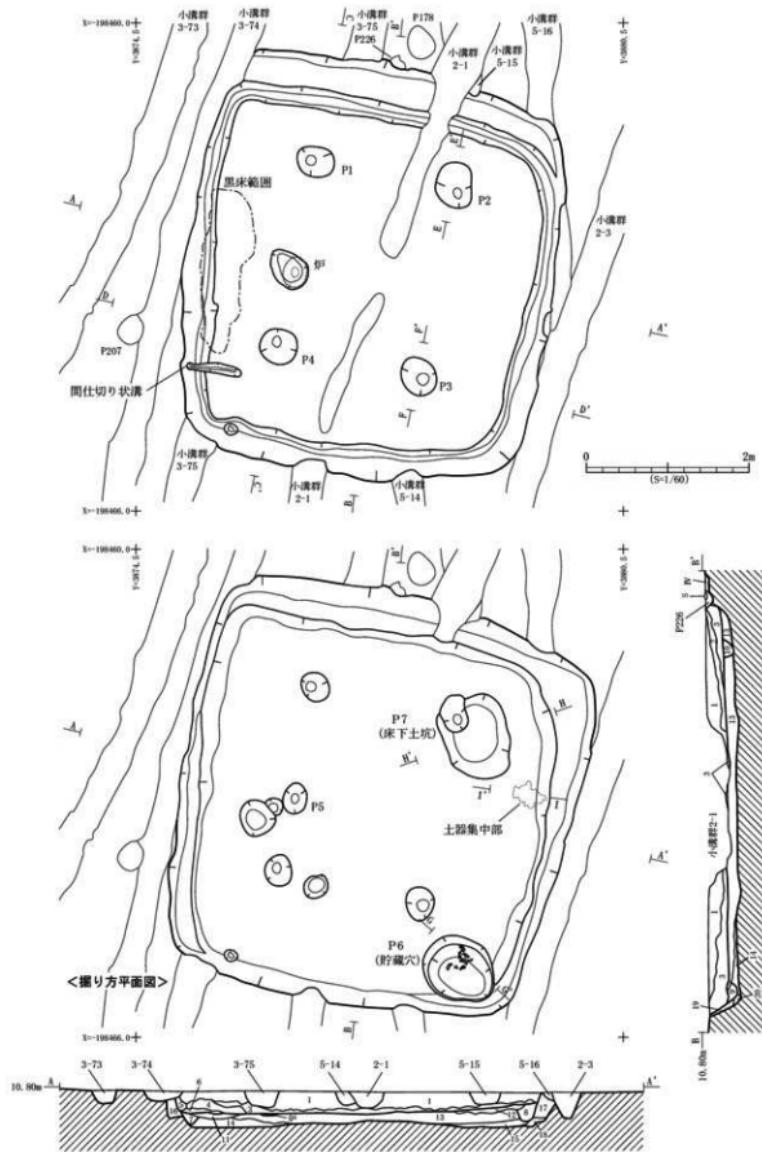
〔付帯施設〕 南西側の床面から周溝上にかけて長さ 68 cm、幅 7 ~ 13 cm、深さ 3 ~ 6 cm の間仕切り状の溝が確認された。堆積土は暗褐色 (10YR3/4) シルトであり、床面との土色差により明瞭に識別できた。

〔掘り方埋め土〕 掘り方埋め土層のうち黒褐色である 11 層以外の 12 ~ 15 層は Va 層に類似するにぶい黄褐色シルトであり、13 層中には炭化粒を微量含み、15 層は地山と比較して粘性の強いものであり、ここまでが掘り方埋め土とみられる。なお、掘り方底面の地山は土性に砂質味が増す点、あるいは掘り込み深度 (35 ~ 45 cm) からみて Vb 層上面前後と考えられる。

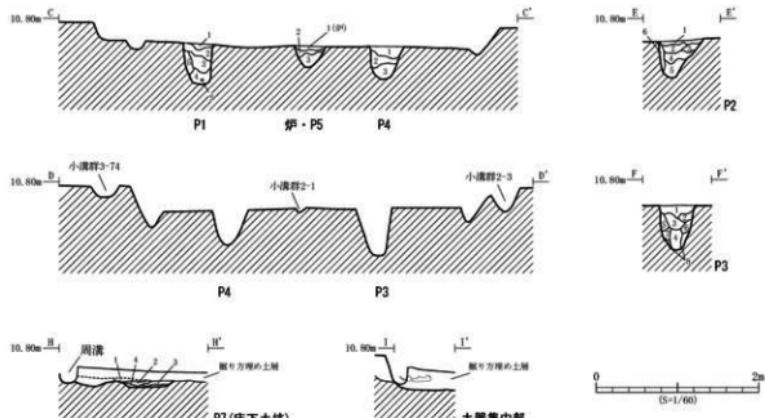
掘り方埋め土の下には P 6 を検出した (第 23 図)。平面形は橢円形であり、規模は 94 × 78 cm、深さは床面から 48 cm、掘り方面からは 36 cm である。堆積土は 9 層から成り、1 層が暗褐色シルト、2・3・5 ~ 8 層がにぶい黄褐色シルト、4・9 層が灰黄褐色シルトで、6 層は Va 層のブロックとみられる。投げ込まれたような遺物出土状況から貯蔵穴が人為的に埋められた可能性がある。この他、柱穴の調査中 P 2 の側面に焼土集中箇所が確認されていたが、精査の結果床下の土坑 P 7 と判断できるものであった。堆積土は 4 層に分層され、焼土粒・焼土ブロックはとくに 2 層中に集中する。この土坑の南東脇の掘り方埋め土には土器集中部がある。

〔建て替え〕 前述のような壁の掘り方の存在、貯蔵穴の埋め戻し状況、床下にみられた土坑や土器集中部のあり方、さらに旧貯蔵穴と掘り方埋め土より出土した土器片が接合する状況などから、建て替え等が行われていると考えられるものである。

第3章 V a 層上面に検出遺構

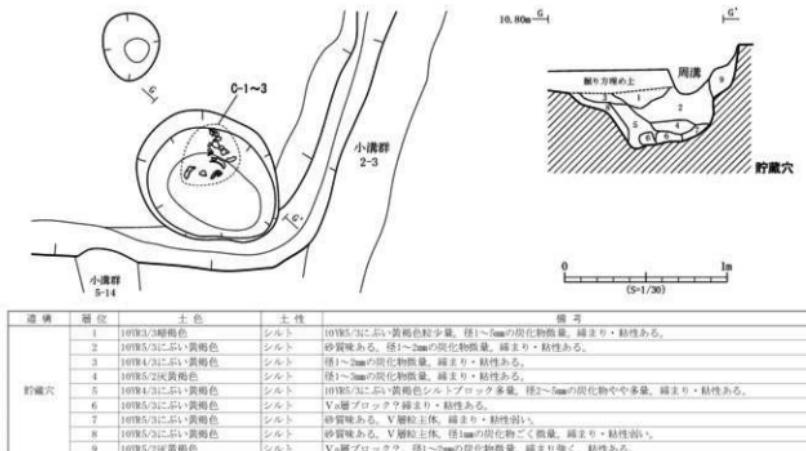


第21図 SII 竪穴住居跡平面・断面図

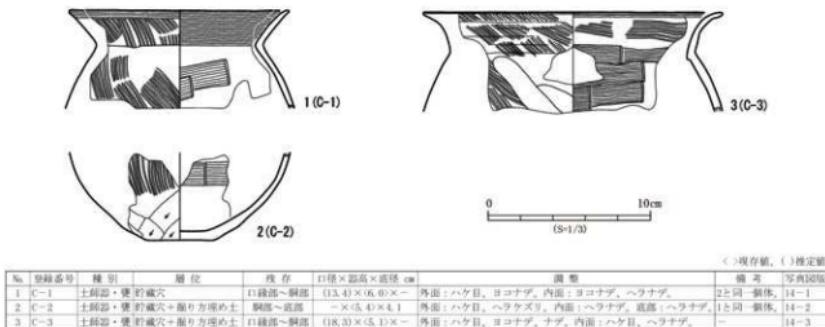


第22図 SII 穴式住居跡柱穴・P7 (床下土坑)・土器集中部断面図

施設	層位	土色	土性	備考
住居内	1	10YR3/3暗褐色	シルト	グリアイ化した10YR6/3に比べ、黄褐色ブロック多量。縮まりやや多く、粘性ある。
	2	10YR4/2K黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色ブロック多量。10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。
	3	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	4	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	砂質味ある。約10mm。10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	5	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	均質土。縮まり、粘性ある。
	6	10YR4/2K黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。
周溝	7	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	約10mm。V層土壁付ソリットラック多量。10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まりやや多く、粘性ある。
	8	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	砂質味ある。縮まりあり、粘性弱い。
	9	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。10YR5/3ブロック少量。縮まりやや多く、粘性ある。
	10	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性ある。
	11	10YR5/3暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まりあり、粘性やや強い。
掘り方(床下)	12	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	13	10YR4/3C-5C-7黄褐色	シルト	砂質味ある。10YR4/3に比べ、黄褐色ブロック多量。均質な地盤。縮まり、粘性ある。
掘り方(壁裏)	14	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	V層土壁より採取。約10mm。均質土。縮まり、粘性ある。
	15	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	V層土壁より採取。約10mm。均質土。縮まり、粘性ある。
	16	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	均質土。均化してごく柔軟。縮まり、粘性ある。
	17	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	均質土。均化して柔軟。縮まり、粘性ある。土面剥片出土。
	18	10YR5/3-10YR4/3混合土	シルト	縮まり、粘性ある。
P1	19	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	均一砂質土。縮まりあり、粘性弱い。
	20	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	均質土。縮まり、粘性ある。
P2	1	10YR4/4暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	2	10YR4/4暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	3	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	4	10YR4/4暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	5	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性弱い。
	6	10YR4/4暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
P3	1	10YR4/2K黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まりやや多く、粘性やや強い。
	2	10YR4/4褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性ある。
	3	10YR3/4暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性ある。柱痕跡。
	4	10YR3/2B暗褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性弱い。
	5	10YR4/2C-5黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性ある。
	6	10YR5/3C-5黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性ある。
	7	10YR4/2C-5黄褐色	砂質シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性ある。
	8	10YR4/4褐色	砂質シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性弱い。
P4・P5	1	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒少量。縮まり、粘性ある。
	2	10YR4/4褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性弱い。
	3	10YR4/3C-5黄褐色	シルト	10YR5/3に比べ、黄褐色砂粒多量。縮まり、粘性弱い。
P7(床下土坑)	1	10YR3/4暗褐色	シルト	10mm前後のV層土壁付ソリットラック。均質化物無量。
	2	10YR4/4褐色	シルト	10mm前後のV層土壁付ソリットラック。均質化物無量。
	3	7.5-10.4褐色	シルト	土壁約20cm有り、V層10-20cmの既坑土。10mm以下の土壁ブロック少量。
	4	10YR4/4褐色	シルト	V層土壁。土壁土が既坑土に30%混入する。



第23図 S11 穴住居跡P6（貯藏穴）平面・断面図



第24図 S11 穴住居跡出土遺物

〔出土遺物〕出土した土器類は土師器片のみの出土であり、計994点を数える。住居内堆積土からは164点出土し、その内訳は1層2点、上層としたもの70点、3層5点、下層としたもの45点、床面上直42点となる。堆積土内に破片が混在する状況であり、接合関係もほとんどない。この他、P1から3点、P2から4点、P3から3点、P4から3点、周溝内からは18点の土師器片が出土している。相対的に遺物量の多いのは掘り方埋め土層からの685点であり、これには土器集中部145点が含まれる。土器集中部は土師器壺の同一個体片を中心に確認されたが、接合率が低いものであり図化に至っていない。貯藏穴P6から100点、床下土坑P7からは1点、及び壁裏の掘り方からは13点の土師器片が出土した。また、この中にはS字状口縁壺の破片4点が含まれているが、その内訳は堆積土下層とP4から1点ずつ、掘り方埋め土中が2点となる。

第24図1~3は貯藏穴出土の土師器壺であり、1・2は同一個体とみられる。2・3は掘り方埋め土より出土した破片が接合している。いずれも屈曲して開口口縁形態であり、1・2は復元器形からみると、球形あるいはやや長胴ぎみとなろうか。1・2及び3はともに古墳時代前期埴釜式期と考えられる。

#### 第4節 Vb層上面検出遺構

小溝状遺構群調査の際に小溝底面に土器の一部が観察されていたが、精査の結果土坑に伴う遺物であることが判明した（SK6）。また、E・F-6・7グリッドの搅乱壁面にあった土色の異なる箇所を精査したところ土坑と確認できた（SK7）。さらに深掘り3区の削り下げる際にVb層上面において小礫と炭化物の平面分布が確認され、最も礫の集中する箇所には小規模な掘り込みを伴っていた（SX2）。

こうした状況でVb層上面に遺構の存在が確認できたため、SK6を中心に南北10m、東西6mの範囲を掘り下げるとともに、SK7からSX1にかけては調査区壁沿いに幅2~3mの調査区を設定した（第26図）。また、住宅が接近する壁面11の一部以外について調査区壁沿いに幅1mの側溝を設け、Vb層上面まで掘り下げた。SK6の西側1mほど離れた箇所では径2mほどの範囲に炭化物の集中傾向がみられたため、遺構の存在を想定してトレンチ調査を行ったが、掘り込み面ではなく僅みに炭化物が入り込む状況であった。Vb層上面調査の結果新たな遺構は検出されなかつたが、Va層中から弥生土器と考えられる破片8点を検出し、うち2点は第28図に示した。以下、Vb層で検出された遺構について説明する。

#### 1. 土 坑

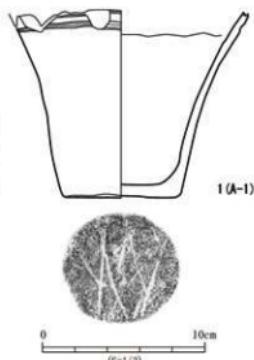
##### SK6土坑（第27図、図版10-2~4）

D-7・8グリッドに位置する。平面形は梢円形で、規模は93×52cm、深さ14cmである。主軸方位はN-48°-Eを向く。断面形は皿形であり、壁は湾曲して立ち上がる。堆積土は3層に分層され、1層がにぶい黄褐色（10YR5/3）シルト、2層が砂質味のあるにぶい黄褐色（10YR5/3）シルト、3層がにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトで、いずれも炭化物を少量含む。

遺物は土坑中央部の2層中に縄文土器（A-1）1個体が出土し、他の破片類の共伴はない。縄文土器は上半を欠失する小型の深鉢で（第25図）、現存高11.5cm、底径6.9cmを測る。上端に沿って横位に巡る沈線文が2条まで確認でき、内外面ともに摩滅しているが、丁寧なミガキが部分的に認められる。底部には木葉痕が観察できる。胎土中に2~3mm超の砂粒が多量に混じる。時期としては縄文時代後期前葉と考えられる。

##### SK7土坑（第27図、図版10-5・6）

I-7グリッドに位置する。長径101cm、短径81cmの比率からみて平面形は円形とする。断面形は皿形であり、深さは12cmを測る。堆積土は2層に分層され、1層は灰黄褐色（10YR4/2）シルト、2層が砂質味のあるにぶい黄褐色（10YR4/3）シルトで、2層中には30mm大の炭化物が混入する。北西寄りから長さ20cmの礫が出土した。その他に遺物は出土していない。



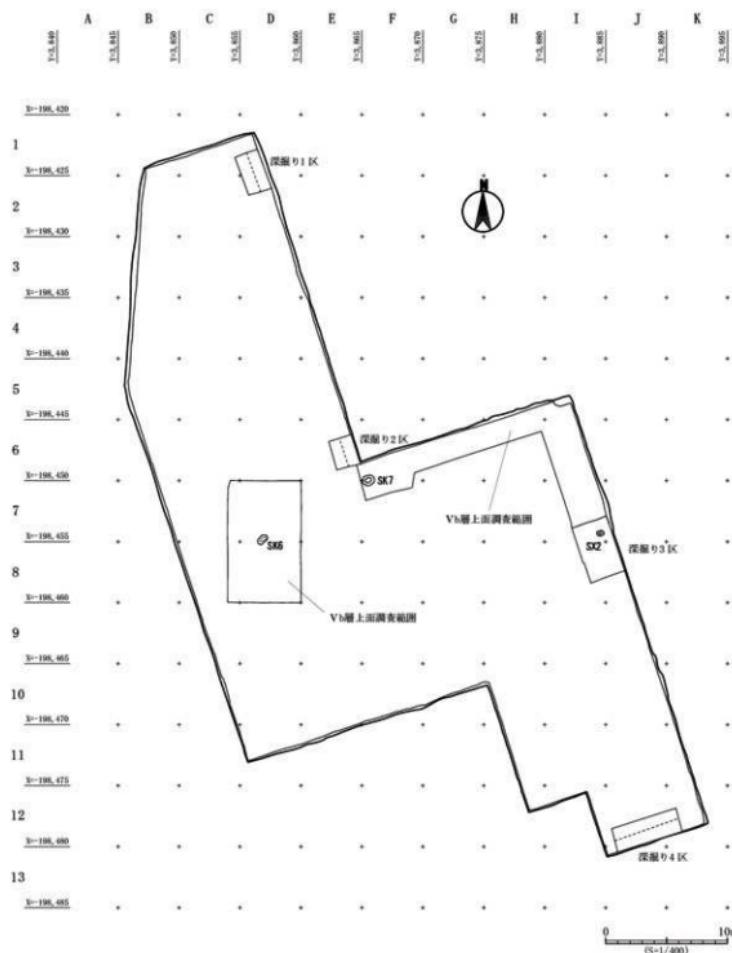
#### 2. 性格不明遺構

##### SX2性格不明遺構（第27図、図版13-1・2）

I-7グリッドに位置する。深掘り3区を調査する際に検出された。Vb層上面で炭化物と礫の平面分布の状況がみられたため精査を行った結果、60cm

第25図 SK6土坑出土遺物

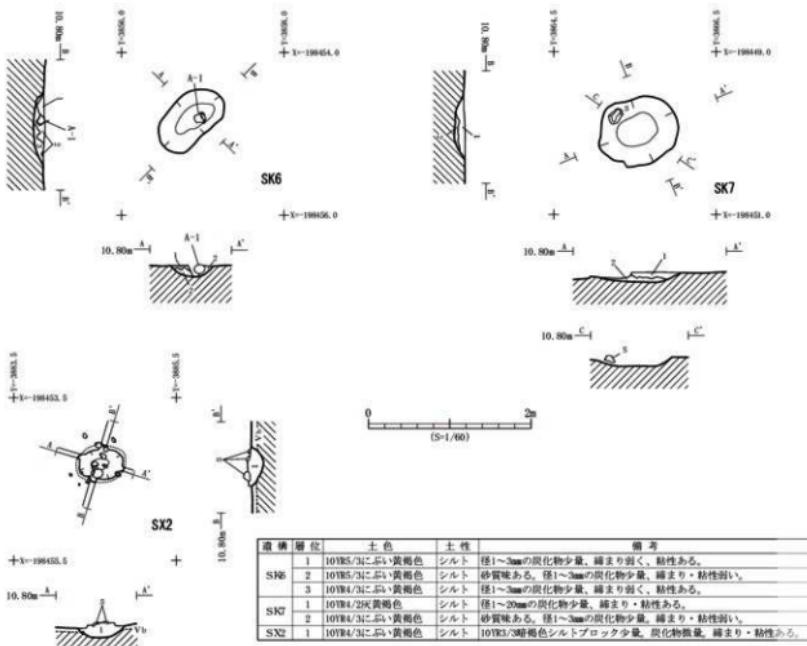
No.	登録番号	種別	層位	残存	認高・底径 cm	測定	備考	参考
1	A-1	縄文土器	2層	体部～底部	(11.5) × 6.9cm	外周：横沈線文、密ミガキ。内面：密ミガキ。底面：木葉痕	上半欠失。黒斑。内外面摩滅。縄文後 期前葉？	14-4



第26図 Vb層上面全体図

四方の範囲に礫の弱い集中状況を確認した。礫は長さ3~15cm大で、5cm前後の円礫が主体となる。礫検出面で掘り込みらしきプランが確認されていたため、ベルトを残して削り下げたところ、小規模な掘り込みを確認した。その平面形は梢円形で、規模は61×47cm、深さ32cmである。

堆積土は単層で、炭化物を微量含むにぼい黄褐色(10YR4/3)シルトである。堆積土中からは中位で小礫1点が出土したのみであった。



第27図 SK6・7土坑、SX2性格不明遺構平面・断面図

## 第5節 その他の出土遺物

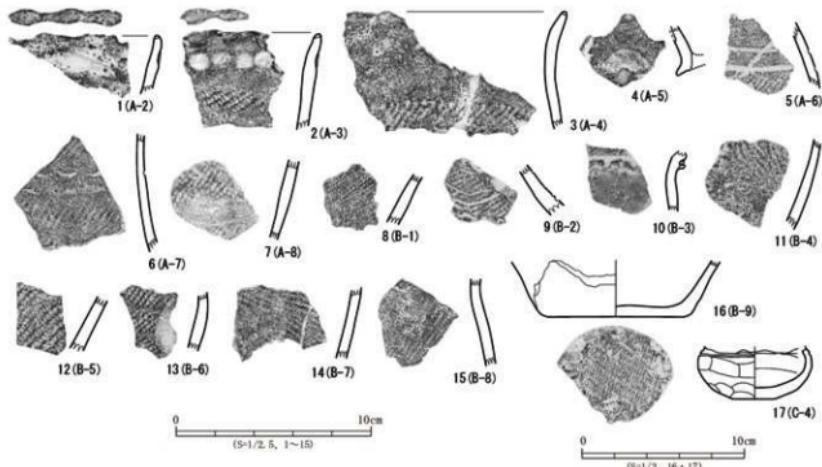
本節では基本土層中より出土した遺物について説明する。今回の調査で出土した土器は、遺構内外を合わせて総点数2523点を数え、基本土層中より出土したものは計980点となり、その大部分を占めるのは土師器片の932点である。壺、壺、鉢と考えられる破片は10点ほどを数えるのみで、その他は土師器甕を主体とする破片が占めている。出土層位はIII層からIV層にかけてである。これらの土師器は接合率の低いものであり、固化できたものは1点のみであり第28図17に示した。第28図17はIV層から出土した土師器であり、上端に横沈線がみられるため小型の鉢とした。

須恵器は5点出土し、I層出土1点(甕)、III層出土2点(甕)、IV層出土2点(壺・甕)となる。陶器1点はI層より出土した堤焼の香炉とみられる破片である。この他に縄文時代から弥生時代にかけてと考えられる土器片が33点ほど出土した。大部分はIV層からの出土であるが、Va層より8点出土している。

第28図に示したうち1~7は縄文土器と考えられる破片である。1~3・6・7は深溝あるいはその可能性をもつ。4は注口土器、5は壺あるいは注口土器とみられる。第28図8~10は弥生土器と考えられ、8は中期後葉の十三塚式の可能性があり、9・10は後期の天王山式の特徴をもっている。第28図11~16については縄文土器か弥生土器と考えられる。

石器は第29・30図に図示したが、第30図1が石錐、他はいずれも鍥石器である。基本層から出土した鍥石器3

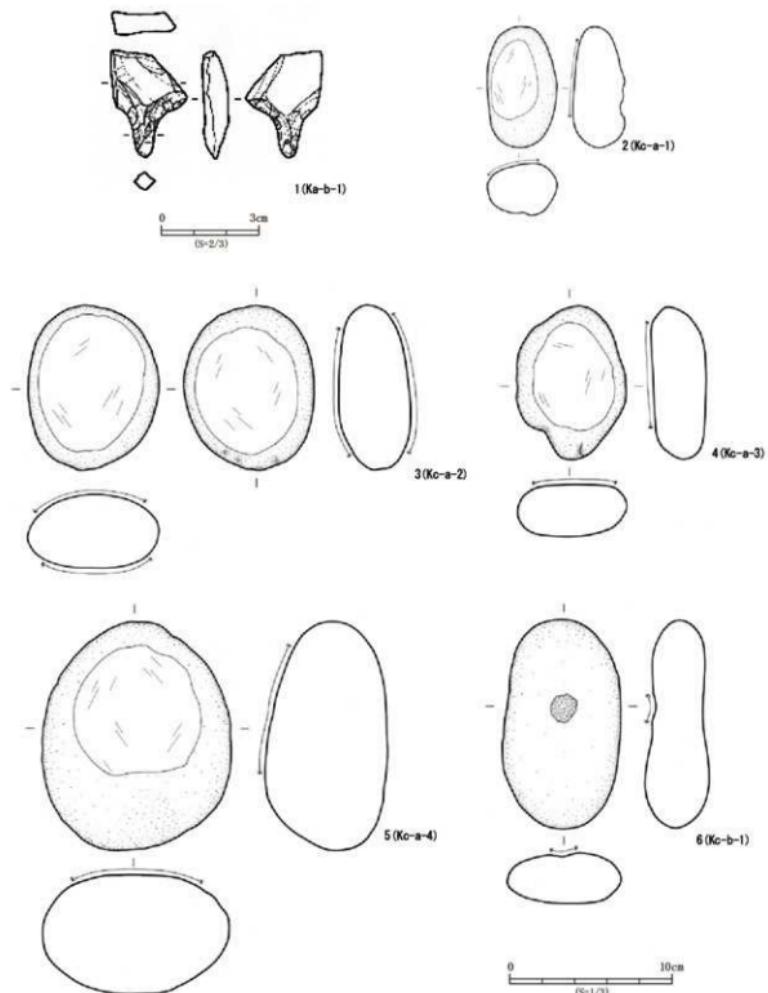
第5章 その他の出土遺物



No.	登録番号	出土位置	層位	種別	器種	性状	施文・調査		備考	写真図版	
							外面	内面			
1	A-2	P129	I層	陶文土器	深鉢?	口縁～体部上半 口唇：押印、口：指捺押印	不明	波状口縁? 内外面摩滅。 A-2と同一、調文後期?	14-5		
2	A-3	小溝群口-70	I層	陶文土器	深鉢?	口縁～体部上半 口唇：押印、口：指捺押印、体：横	不明	波状口縁? 内外面摩滅。 A-2と同一、調文後期?	14-6		
3	A-4	E-120r	IV層	陶文土器	深鉢	口縁～体部上半 口唇：押印、体：横(?)陶文	不明	内外面摩滅、調文後期?	14-7		
4	A-5	P87	I層	陶文土器	注口	体部小片 密ミガキ	無ナデ	外面注口部剥離。調文後期	14-8		
5	A-6	E-EGr.	Va層	陶文土器	造か口付	体部下半小片 ミガキ	波文後期	ミガキ	14-9		
6	A-7	G-9Gr.	IV層	陶文土器	深鉢?	体部小片 横印18回文(底飾)	ナデ	内面摩滅、調文後期?	14-10		
7	A-8	小溝群3-29	II層	陶文土器	深鉢?	体部小片 横印18回文	ミガキ	—	14-11		
8	B-1	小溝群3-53	II層	陶生土器	鉢?	体部下半小片 横印18回文(付加系?)	密ミガキ	中期後葉十二環式?	14-12		
9	B-2	J-125r.	IV層	陶生土器	鉢?	體部下端～体部 上半小片	無ナデ	弥久後葉天子山式	14-13		
10	B-3	小溝群2-6	I層	陶生土器	造か皿	口縁～頭部小片 口：横印18回文、横印底盤(下端) V字彫文(斜位高輪)、土・下押印、明	弥久後葉天子山式、口縁底盤 草上半丸矢、内面摩滅 ナデ	弥久後葉天子山式、口縁底盤 草上半丸矢、内面摩滅	14-14		
11	B-4	E-120r.	IV層	陶文か弥生土器	深鉢?	体部小片 横印18回文	ナデナリ	外面摩滅、鐵熱赤色化。	14-15		
12	B-5	J-125r.	IV層	陶文か弥生土器	深鉢?	体部小片 横印18回文	ナデ	—	14-16		
13	B-6	J-125r.	IV層	陶文か弥生土器	深鉢?	体部小片 横印18回文	ナデミガキ	—	14-17		
14	B-7	F-6+B-9Gr.	IV層	陶文か弥生土器	不明	体部小片 縫、斜・横印18回文	ナダウ	内面摩滅	14-18		
15	B-8	B-9Gr.	IV層	陶文か弥生土器	深鉢	体部小片 横印18回文	ナデ	—	14-19		
No.	登録番号	出土位置	層位	種別	器種	部位	器高・底径 cm	調査		写真図版	
								外 面	内 面		
16	B-9	B-2Gr.	Va層	陶文か弥生土器	深鉢	体部下～底部	(3.4)×0.4	体：密ミガキ、底：網代板	ナデ、密ミガキ	底面外側部分的に剥離	14-20
17	C-4	G-9Gr.	IV層	土師器	小型鉢?	体部～底部	(3.3)×2.2	横印18回文、ナデ	ナデ	底面に黒斑。	14-21

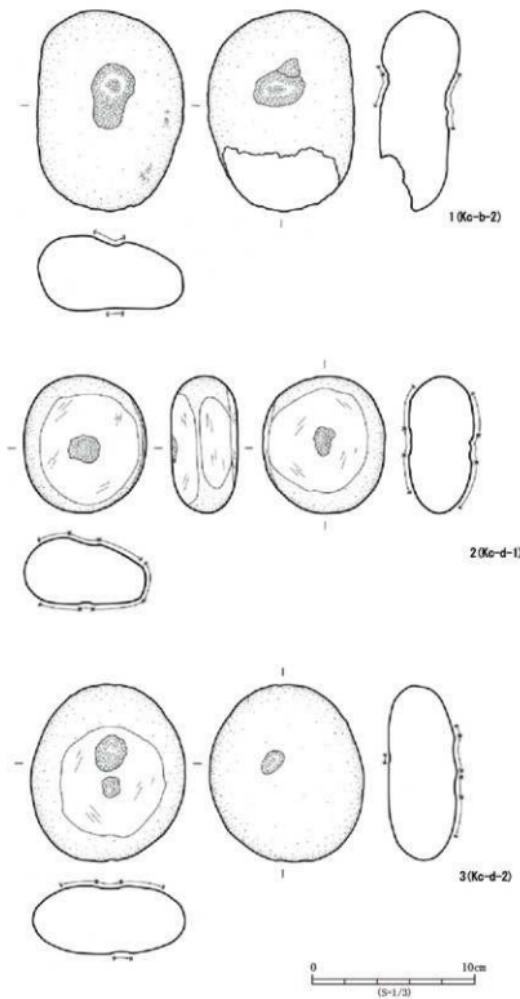
第28図 出土遺物(1) 土器

点はIV層・Va層・Vb層からの出土である。



No.	登録番号	出土位置	層位	器種	石質	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	備考	写真回数
1	Ko-b-1	J-12Gc.	IV層	石鏃	珪質頁岩	32.9	22.5	7.0	3.44	表面にハジケあり。	14-22
2	Ko-a-1	小溝群3-64	I層	鍥石器	安山岩	112.5	65.0	(49.0)	6467	面1. 鏽面部分欠損。	14-23
3	Ko-a-2	深掘り3区	Vb層	鍥石器	安山岩	102.0	80.5	45.5	542	面2.	14-24
4	Ko-a-3	小溝群2-8	V層	鍥石器	安山岩	94.5	67.5	34.0	291	面1.	14-25
5	Ko-a-4	J-7Ge.	Va層	鍥石器	安山岩	130.5	116.5	76.0	1629	面1.	14-26
6	Ko-b-1	P216	V層	鍥石器	安山岩	128.0	73.0	40.0	494	面1.	14-27

第29図 出土遺物(2) 石器



○現存

No.	登録番号	出土位置	層位	器種	石質	長さ mm	幅 mm	厚さ mm	重さ g	備考	写真回数
1	Kc-b-2	K-12Gc-	Va層上位	楕円石器	安山岩	<123.5	96.0	50.0	<447-[B1+2, 厚面下端欠損]	14-28	
2	Kc-d-1	H-12Gc-	Va層上位	楕円石器	安山岩	84.5	75.0	41.5	492-[厚3(横1), B1+1]	14-29	
3	Kc-d-2	小溝群2-3	下層	楕円石器	安山岩	109.0	95.0	42.0	590-[厚1, B2+1]	14-30	

第30図 出土遺物（3）石器

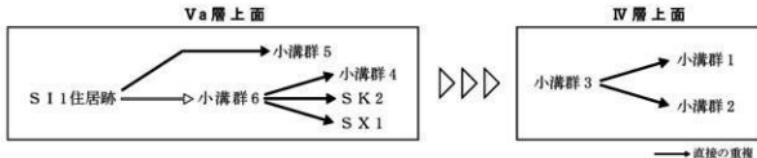
## 第VI章 まとめ

### 確認された遺構

今次調査でⅢ層上面～Vb層上面にかけての遺構群が確認された。遺構内容は縄文時代後期の土坑1基、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、古墳時代から古代にかけての溝跡5条、小溝状遺構群6群、土坑5基、性格不明遺構1基、ピット262個であり、Vb層上面検出の土坑SK7と性格不明遺構SX2は時期不明である。IV層からVa層上面にかけて検出された溝跡や小溝状遺構群が今回調査の主体遺構となっている。なお、本地点南に近接して春日社古墳、大野田1・2号墳等が存在しており、今次調査で新たな古墳が発見される可能性があったが、精査の結果古墳は認められなかった。

### 遺構確認面と遺構間の新旧関係

Ⅲ層上面検出遺構は溝跡1条と土坑2基である。IV層上面で検出された小溝群は大きくみて北～北北東方向の方向性をもつ一群として捉えられ、その新旧関係は小溝群1・2が小溝群3より新しくなる。Va層検出遺構は古墳時代前期のSI1住居跡を含めた古墳時代前期の集落が占地する段階、及び土坑や性格不明遺構を伴う形で小溝群が展開する段階の大きく2時期に分かれるが、小溝群が2段階に分かれたり、Va層上面としては3段階の変遷が考えられる。地区内の傾向から判断すると、東西方向の小溝群6より南北方向の小溝群5が新しくなる可能性がある。第31図にはVa層上面からIV層上面にかけての主要遺構の新旧関係を示している。Vb層上面では土坑2基(SK6・7)、性格不明遺構1基(SX1)を確認した。



第31図 主要遺構の新旧関係図

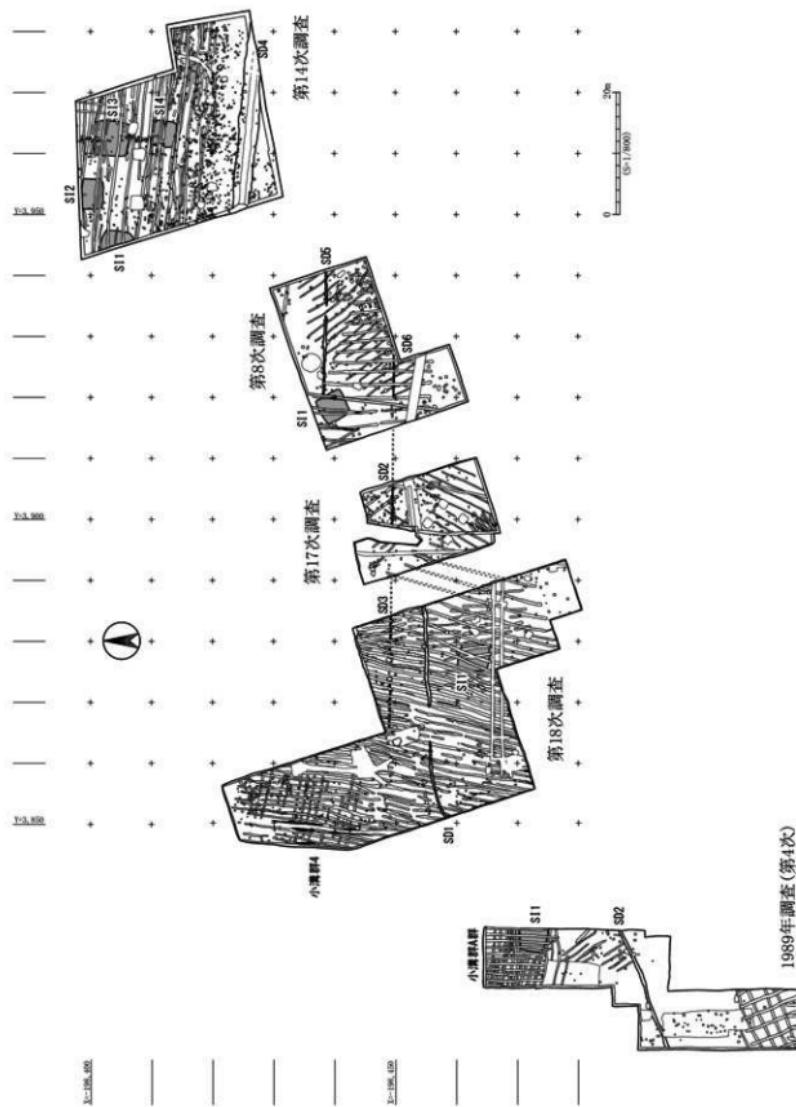
### 小溝状遺構群の配置

今次調査でIV層上面からVa層上面にかけての小溝状遺構群を確認した。新旧関係は第31図のとおりである。小溝群の方向性をみると、最も古い小溝群6では西北西方向(平均N-79°-W)を基本としているのに対し、小溝群4・5はほぼ南北方向(平均N-3°-EとN-9°-W)に大きく向きを変えている。IV層上面段階の小溝群3に至ると弱く北東方向に振れだし(平均N-10°-E)、最新段階の小溝群1・2では北東寄り(平均N-19°-EとN-16°-E)にその方向性を変えており、時計回りのような変遷として見受けられる。

最も広範囲に広がる小溝群3については西半と東半部分でわずかに方向性が異なり、東半が西半と比べて数度はあるが北東側に振れる向きをとっており、小溝群3を2単位に分割し得るものである。今回は大きく1群として捉えているが、今後周辺状況と考え合わせるうえでの留意点としておく。また、調査区北端部と南端部では小溝状遺構群の分布が一線を画して途切れるように見受けられるため、隣接調査の成果を待って検討する必要がある。

### 隣接地との関係

<小溝状遺構群>隣接地の平面図を第32図に示した。第14次調査のSD4は大野田官衙遺跡関連の構である。第14次調査ではこのSD4大構を境にして小溝群の分布状況に変化がみられ、SD4が何らかの境界として認識されていた可能性が指摘されている(仙台市教育委員会 2009b)。また、第17次調査の報告では、第8次調査から第17次



第32図 近隣の成果との対応関係（仙台市文化財調査報告書第138・290・339・355集を転載し合成）

調査にかけてみられた南北・北西方向の小溝群に加え、新たにIV層上面で北東方向の小溝群が確認された点が述べられている（仙台市教育委員会 2009c）。第32図でみると、第18次小溝群2と第17次小溝群5は同一の小溝群とみて間違いないと思われる。第18次調査では小溝群2と同じくIV層上面で小溝群1も検出されており、第17次地区西端でみられた南北方向から北東方向へと変化する小溝群の変遷を今次調査で改めて確認できたといえる。これらは溝間隔が2m前後と広くなる点でも共通している。

今次調査区の南側一帯は大野田古墳群1995～98年調査地区が広がるが、ここでも類似する小溝群が数ヵ所みられる（仙台市教育委員会 2000a）。これらについては新旧関係等の時期的位置付けを整理するとともに、溝間隔についても異なる小溝群が重複して結果的に溝間隔が狭くなることも考慮して慎重に考えていくべき。

これとは別に20mほど離れた西側には大野田古墳群1989年調査地点（第4次）があるが、ここでは東西方向、南北方向、北西方向の小溝群が確認され、このうち南北方向の小溝状遺構群A群が最も新しいとされている（仙台市教育委員会 1990）。この南北方向の小溝群は第18次調査西側で3条のみ抽出した小溝状遺構群4と同じ方向性をもつため相互に関連する可能性もあるが、現時点では不明な点が多い。

＜溝跡＞計5条確認された溝跡のうち、SD3は東西方向に直線的に延びる溝であるが、第32図でみると第8次調査SD6と第17次調査SD2とはその配置と方向性から同一溝であることが分かる。いずれもV層上面での検出である。これらは直線上で結ばれ、座標交点との位置関係からみても整然と東西方向に延びる点が特徴的である。上端幅は最大50cm、最深部で16cmと小規模な溝である。3地点とともに遺物が出土しておらず時期は不明であるが、区画等を目的とした規格的な溝とみることができる。ちなみに、第8次調査でSD6と平行するSD5は同時期の可能性があるとされている（仙台市教育委員会 2005a）。また、第18次SD1と第4次SD2は規模や形態で類似性がみられ、第18次SD1は南西方向に向きを変えつつあることから、同一溝である可能性を若干であるが残している。

＜古墳時代の住居跡＞第18次S11堅穴住居跡は、土器師窯を主体とする破片が散在的に出土する状況であったが、貯蔵穴出土の甕により古墳時代前期塩釜式期と判断できるものであった。第33図には近隣遺跡で確認された住居跡6軒の分布を示したが、いずれも塩釜式期の遺物を出土しており、同一集落を構成すると考えられるものである。これらは東北東方向に延びる分布域の中で捉えられるとともに、住居規模が5m前後で共通するうえ、第14次S13・4と第18次S11は住居軸の一一致をみている。隣接遺跡では六反田遺跡、下ノ内遺跡、伊古田遺跡で塩釜式期の集落が確認されており（第1・2図）、今後これらとの関連性で考えていく必要がある。

註(1) 町田 洋・新井房夫 森脇 広 1981「日本海を渡ってきたテフラ」『科学51』 p562-569

町田 洋・新井房夫 2003『新編 火山灰アトラス』東京大学出版会 p336

#### 引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 1981『仙台市文化財調査報告書第34集 六反田遺跡発掘調査報告書』  
仙台市教育委員会 1987『仙台市文化財調査報告書第193集 大野田古墳群・奉日社古墳・鳥居塚古墳』  
仙台市教育委員会 1990『仙台市文化財調査報告書第138集 大野田古墳群・発掘調査報告書一』  
仙台市教育委員会 1993『仙台市文化財調査報告書第173集 下ノ内遺跡－第4次発掘調査報告書一』  
仙台市史編さん委員会編 1995『仙台市史 特別編2 考古資料』仙台市  
仙台市史編さん委員会編 1999『仙台市史 通史編1 原始』仙台市  
仙台市史編さん委員会編 2000『仙台市史 通史編2 古代中世』仙台市  
仙台市教育委員会 2000a『仙台市文化財調査報告書第243集 大野田古墳群・王ノ塙遺跡・六反田遺跡－仙台市富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書I－』

## 引用・参考文献

- 仙台市教育委員会 2000b『仙台市文化財調査報告書第 249 集 王ノ塙遺跡－都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡発掘調査報告書 I』
- 仙台市教育委員会 2004「仙台市大野田古墳群」『平成 16 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2005a『仙台市文化財調査報告書第 290 集 大野田古墳群－第 8 次発掘調査報告書－』
- 仙台市教育委員会 2005b『仙台市文化財調査報告書第 291 集 大野田古墳群－第 9 次発掘調査報告書－』
- 仙台市教育委員会 2006a『仙台市文化財調査報告書第 301 集 大野田古墳群－第 11 次発掘調査報告書－』
- 仙台市教育委員会 2006b『仙台市富沢駅周辺遺跡群』『平成 18 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2008a『大野田古墳群他－官衙関連遺構－』『第 34 回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』古代城柵官衙検討会
- 仙台市教育委員会 2008b『仙台市文化財調査報告書第 319 集 大野田古墳群－第 13 次発掘調査報告書－』
- 仙台市教育委員会 2008c『仙台市 春日社古墳』『平成 20 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2008d『六反田遺跡・大野田古墳群』『平成 20 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会
- 仙台市教育委員会 2008e『仙台市文化財調査報告書第 322 集 富沢遺跡－第 141 次発掘調査報告書－』
- 仙台市教育委員会 2009a「(仮称) 大野田官衙遺跡」『第 35 回古代城柵官衙遺跡検討会－資料集－』古代城柵官衙検討会
- 仙台市教育委員会 2009b『仙台市文化財調査報告書第 330 集 大野田古墳群－第 14 次発掘調査報告書－』
- 仙台市教育委員会 2009c『仙台市文化財調査報告書第 355 集 大野田古墳群－第 17 次発掘調査報告書－』
- 仙台市教育委員会 2009d『仙台市大野田官衙遺跡』『平成 21 年度宮城県遺跡調査成果発表会発表要旨』宮城県考古学会



1. IV層～Va層上面完掘状態（南から）



2. IV層～Va層上面完掘状態（北から）

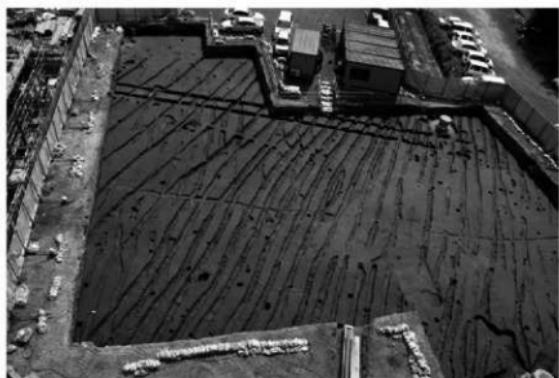
写真図版 1 調査区全景（1）



1. IV層～Va層上面完掘状態（北東から）



2. IV層～Va層上面完掘状態  
調査区中央から北側（南西から）



3. IV層～Va層上面完掘状態  
調査区中央から南側（北から）

写真図版 2 調査区全景（2）



1. Va層上面完層状態（南から）



2. Va層上面完層状態（北から）

写真図版 3 調査区全景（3）



1. Va層上面完掘状態（北東から）



2. Va層上面完掘状態  
調査区中央から南側（北から）



3. 調査区全景及び地下鉄南北線富沢駅周辺の景観（東から）

写真図版 4 調査区全景（4）



1. 調査区北側Va層上面遺構検出状況（南から）



2. 調査区南側Va層上面遺構検出状況（南から）



3. 調査区中央Va層上面遺構検出状況（東から）

写真図版 5 遺構検出状況



1. S I I 全景 (東から)



2. S I I 挖り方全景 (南から)

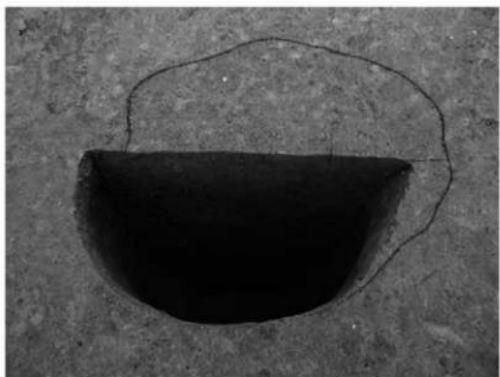
写真図版 6 空穴住居跡 (1)



1. S I I 断面（南から）



2. S I I 周辺検出状況（南から）



3. S I I - P 3 断面（東から）

写真図版 7 整穴住居跡（2）



1. S I I 振り方理め土断面(南東から)

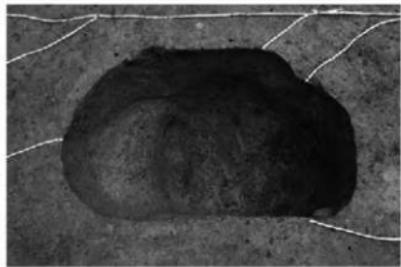


2. S I I 貯藏穴遺物出土状況及び断面(南西から)

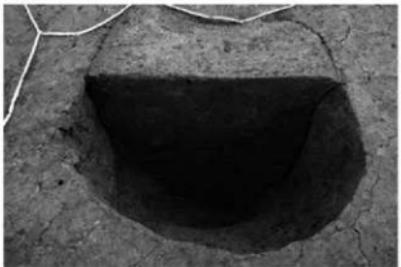


3. S I I 床下土坑断面(北北西から)

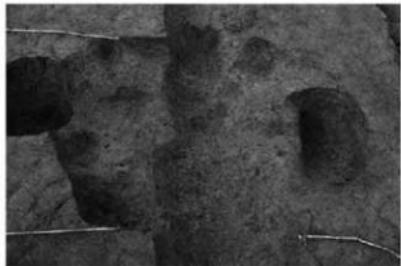
写真図版 8 積穴住居跡(3)



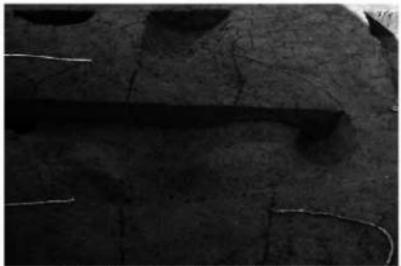
1. SK 1 完掘全景 (西から)



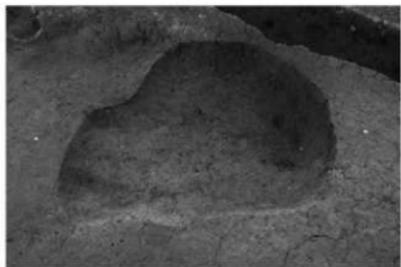
2. SK 1 断面 (北から)



3. SK 2 完掘全景 (南から)



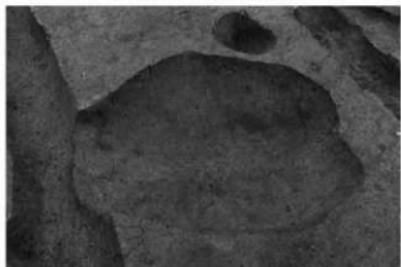
4. SK 2 断面 (南から、左P 62、中央小溝群3-24)



5. SK 3 完掘全景 (東から)



6. SK 3 断面 (東から)



7. SK 4 完掘全景 (南西から)



8. SK 4 断面 (南西から)

写真図版 9 土坑 (1)



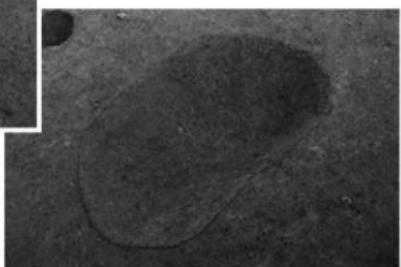
1. SK 5 全景及び断面 (南東から)



2. SK 6 遺物出土状況及び断面 (西から)



3. SK 6 遺物出土状況及び断面 (南西から)



4. SK 6 完掘全景 (南から)



5. SK 7 断面 (西から)



6. SK 7 遺物出土状況 (北西から)

写真図版 10 土坑 (2)



1. III層範囲検出状況（北から、中央SD 1）

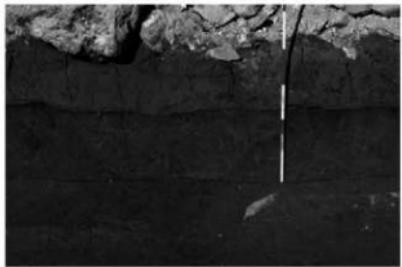


2. SD 1 完成全景（西から）



3. SD 1 断面A-A'（東から）

写真図版 11 III層範囲検出状況、溝跡（1）



1. SD 2 断面 (南から)



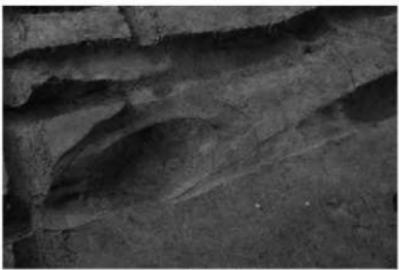
2. 堤面 3 小溝状造構群断面 (南西から、左SK-5)



3. 調査区中央東側小溝状造構群全貌 (南から)

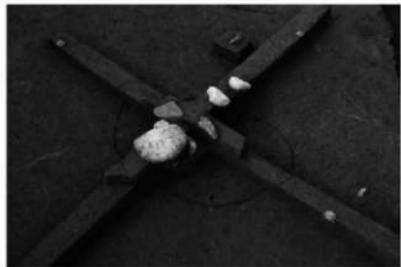


4. SX 1 断面及び炭化材出土状況 (南東から)

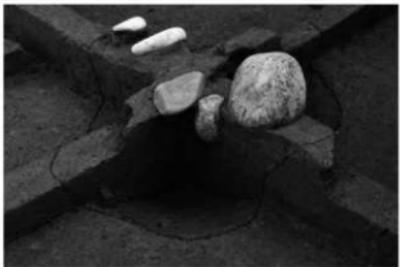


5. SX 1 完掘全貌 (南東から)

写真図版 12 溝跡 (2)、小溝状造構群、性格不明造構 (1)



1. SX 2 振り込み検出状況（南から）



2. SX 2 遺物出土状況及び断面（西から）



3. 深掘り 1 区全景（南から）

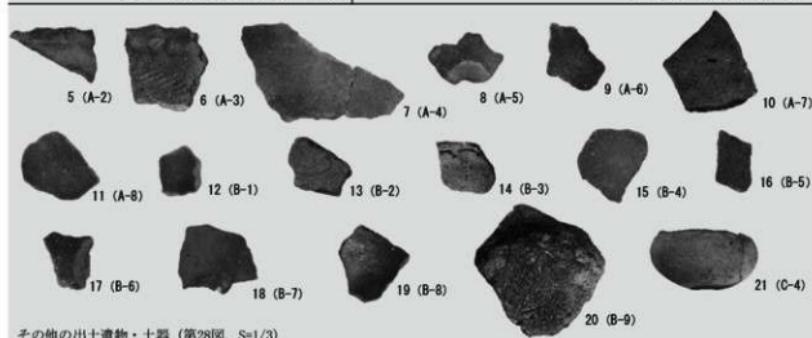
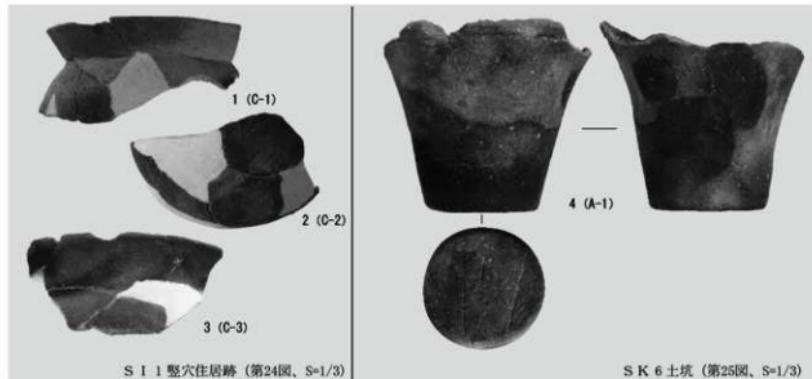


4. 深掘り 2 区南・西壁断面（北東から）



5. 深掘り 4 区北壁断面（南西から）

写真図版 13 性格不明造構（2）、土層断面



写真図版 14 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	おおのだこふみぐん						
書名	大野田古墳群						
副書名	第18次発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第364集						
編著者名	平間亮輔・吉田浩明						
編集機関	仙台市教育委員会(文化財課)						
所在地	〒980-8761 宮城県仙台市青葉区二日町1番1号 TEL 022-214-8894						
発行年月日	2010年3月19日						
所収遺跡名	所在地	コ一ド 市町村	北緯 遺跡番号	東經 。	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
大野田古墳群	宮城県仙台市 富沢駅周辺土地 区画整理事業地内 27街区13・14・15 圃地(太白区大野 田字松・宮脇)	04100	仙台市 C-054 宮城県 01361	38° 12' 44"	140° 52' 40"	20090701 ~ 20091118	1330m <sup>2</sup> 大野田老人福祉セ ンター、コミュニ ティーセンター並 びに大野田児童館 複合施設新築工事 に伴う埋蔵文化財 の事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項
大野田古墳群	集落跡 畠跡	縄文時代	土坑	1基	繩文土器	土師器、須恵器、石器 6群167条 262個	
		古墳時代以降	住居跡 溝跡 小溝状遺構群	1軒 5条 6群			
要約	郡山低地南端部の自然堤防上に立地する。主体となる遺構は古代の小溝状遺構群であり、重複関係や方向性の差異により数段階の変遷が考えられる。この他に古墳時代前期壙釜式期の住居跡1軒が発見されたが、すでに近接調査区で確認されている同時期の住居跡群と同一集落を構成する可能性が高い。この他、土器1個体を伴う縄文時代後期の土坑も発見されている。 遺物は小溝状遺構群を中心に出土した土師器片が主体となり、基本層からは縄文時代後期、弥生時代後期の土器片が少量出土した。						

仙台市文化財調査報告書第364集

## 大野田古墳群

-第18次発掘調査報告書-

2010年3月

発行 仙台市教育委員会  
仙台市青葉区二日町1番1号  
仙台市教育委員会文化財課  
TEL 022-214-8894

印刷 (有) 平電子印刷所  
福島県いわき市平北白土字西ノ内13番地  
TEL 0246-23-9051